

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公表特許公報(A)

(11) 特許出願公表番号

特表2017-515625

(P2017-515625A)

(43) 公表日 平成29年6月15日(2017.6.15)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
A 4 7 G 21/06 (2006.01)	A 4 7 G 21/06	3 B 0 0 1
A 4 7 G 21/00 (2006.01)	A 4 7 G 21/00	V 3 B 1 1 5
A 4 7 G 19/00 (2006.01)	A 4 7 G 19/00	N

審査請求 未請求 予備審査請求 未請求 (全 37 頁)

(21) 出願番号	特願2017-507055 (P2017-507055)	(71) 出願人	516320458
(86) (22) 出願日	平成27年4月24日 (2015. 4. 24)		ヤオ、イェン-チー
(85) 翻訳文提出日	平成28年10月25日 (2016. 10. 25)		台湾、タイペイ シティ、ソンシャン
(86) 国際出願番号	PCT/CN2015/077358		ディストリクト、サンミン ロード、レー
(87) 国際公開番号	W02015/165362		ン 35、ナンバー 1、9フロアー-3
(87) 国際公開日	平成27年11月5日 (2015. 11. 5)	(74) 代理人	100082418
(31) 優先権主張番号	61/984, 847		弁理士 山口 朔生
(32) 優先日	平成26年4月27日 (2014. 4. 27)	(72) 発明者	ヤオ、イェン-チー
(33) 優先権主張国	米国 (US)		台湾、タイペイ シティ、ソンシャン
(31) 優先権主張番号	14/516, 583		ディストリクト、サンミン ロード、レー
(32) 優先日	平成26年10月17日 (2014. 10. 17)		ン 35、ナンバー 1、9フロアー-3
(33) 優先権主張国	米国 (US)	F ターム (参考)	3B001 AA01 AA02 BB02 CC15 CC17
			CC21 CC33
			3B115 AA17 BA02 BB01 BC05 DA09
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 障害者向けの食器

(57) 【要約】

【課題】 障害者が食べることの難しさを緩和し、食品摂取量を増加することで、介助者をアシストする、障害者向け食器の提供。

【解決手段】 本発明は、認知障害を持つ認知障害者または発達不全の人、あるいはその他あらゆる飲食に困難を有する人向けの食器セットであり、前記食器セットが少なくとも1つの容器と少なくとも1つのスプーンを含み、前記容器が、平滑な側壁部と、容器により形成される非対称の空間を定義する垂直方向に傾斜したボウル部を備え、前記容器の下側に平らな底部が設けられ、1つまたは複数の軸で前記容器の曲率に適合するスプーンが提供され、スプーンを使用する障害者を補助するために、スプーンの両端部が前記容器の側壁部の垂直方向の曲率に適合し、前記スプーンの先端部が水平の曲率に適合するとともに、前記スプーンのハンドル部がスプーンを持ったときの手の形状に適合する弧に沿って設計される。

【選択図】 図 3 0

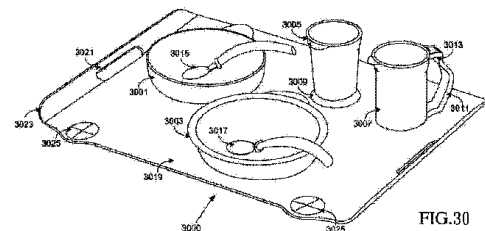


FIG.30

【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

食器セットであって、

1 つ以上の容器を含み、前記容器がそれぞれ、

概ね平らな底部と、

前記底部上に配置されたボウル部と、

概ね滑らかな内側面を備え、前記ボウル部の外周を囲み、かつ前記ボウル部の上方に垂直方向に延伸された、概ね直立した側壁部を含み、

前記ボウル部の上表面が垂直方向に傾斜され、前記ボウル部の第 1 側が前記ボウル部の第 2 側より前記底部上でより高くなるように構成され、前記容器の前記第 1 側が前記容器の前記第 2 側に相対する側であることを特徴とする、

食器セット。

【請求項 2】

前記容器がさらに、前記側壁部の一部分に沿って配置されたタブを含み、前記タブが前記側壁部から概ね水平に延伸されたことを特徴とする、請求項 1 に記載の食器セット。

【請求項 3】

前記容器がさらに、前記側壁部の外周を囲む円形リップ部を含み、前記円形リップ部が前記側壁部から外側に向かって上向きに延伸されたことを特徴とする、請求項 1 に記載の食器セット。

【請求項 4】

前記容器がさらに、前記円形リップ部に接続された複数のハンドル部を含み、前記複数のハンドル部が前記円形リップ部から下向きに延伸されたことを特徴とする、請求項 3 に記載の食器セット。

【請求項 5】

さらにスプーンを含み、前記スプーンが、つぼ部と、前記つぼ部の第 1 端部から延伸されたハンドル部と、前記ハンドル部に相対する前記つぼ部の端部に沿って配置された先端部を含むことを特徴とする、請求項 1 に記載の食器セット。

【請求項 6】

前記スプーンの前記先端部の曲率が、前記容器のボウル部の曲率に垂直軸に沿って概ね適合することを特徴とする、請求項 5 に記載の食器セット。

【請求項 7】

前記つぼ部の側面端部の曲率が、前記容器の側壁部の曲率に水平軸に沿って概ね適合することを特徴とする、請求項 5 に記載の食器セット。

【請求項 8】

前記ハンドル部が前記つぼ部の第 1 端部から人がスプーンを握ったときの手の形状に対応した曲率に沿って延伸されたことを特徴とする、請求項 5 に記載の食器セット。

【請求項 9】

前記容器の側壁部が、概ね赤色の外側表面と、概ね黄色の外側表面の少なくとも 1 つを含むことを特徴とする、請求項 1 に記載の食器セット。

【請求項 10】

前記側壁部が、前記ボウル部の第 1 側に対応する前記側壁部の第 1 側と、前記ボウル部の第 2 側に対応する前記側壁部の第 2 側と、を含み、そのうち、前記側壁部の第 1 側が前記ボウル部上方に概ね直線に沿って垂直方向に延伸され、さらに、前記側壁部の第 2 側が前記ボウル部上方に弧に沿って延伸されたことを特徴とする、請求項 1 に記載の食器セット。

【請求項 11】

さらに前記側壁部の上表面に沿って装着機構により前記容器に取り外し可能に取り付けられるように構成された着脱自在の蓋を含むことを特徴とする、請求項 1 に記載の食器セット。

【請求項 12】

さらに、前記側壁部の内側表面の上部に沿って配置された第１らせん状隆起部を含み、前記装着機構が、前記装着機構の表面に沿って配置された第２らせん状隆起部を含み、前記第２らせん状隆起部が、前記第１らせん状隆起部と直接接触するとき、回転動作によって前記第１らせん状隆起部に固定されるよう構成されたことを特徴とする、請求項１に記載の食器セット。

【請求項１３】

前記装着機構が、前記着脱自在の蓋を前記容器に取り外し可能に固定するよう構成されたラッチを含むことを特徴とする、請求項１に記載の食器セット。

【請求項１４】

前記着脱自在の蓋が、複数のフラップを含む開口を含み、前記フラップが前記開口から延伸されるストローの位置を固定するよう構成されたことを特徴とする、請求項１に記載の食器セット。

【請求項１５】

前記容器がハンドル部を含み、前記ハンドル部が、前記側壁部の外側表面の少なくとも一部分に沿って前記容器に接続されたことを特徴とする、請求項１に記載の食器セット。

【請求項１６】

前記ハンドル部がさらに、前記底部の一部分に沿って前記容器に接続された安定化部分を含み、前記ハンドル部の安定化部分の底面側表面が前記底部の底面側表面に平行になるように構成されたことを特徴とする、請求項１に記載の食器セット。

【請求項１７】

前記ハンドル部の内側表面に、人の指の幅に概ね相当する幅を有する溝部を設けたことを特徴とする、請求項１に記載の食器セット。

【請求項１８】

前記側壁部の外側表面が、前記側壁部の外側表面に配されたテクスチャ加工、前記側壁部の外側表面に配された複数の溝部、前記側壁部の外側表面に配された複数の隆起部、で構成される群より選択された少なくとも１つの滑り止め装置を含むことを特徴とする、請求項１に記載の食器セット。

【請求項１９】

さらにトレイを含み、前記トレイが、平坦な表面と、前記平坦な表面の相対する端部に設けられた複数のハンドル部と、前記平坦な表面の少なくとも１つの端部に沿って配置された複数の固定機構を含み、前記固定機構が前記トレイに布片を取り外し可能に固定できるように構成されたことを特徴とする、請求項１に記載の食器セット。

【請求項２０】

前記各固定機構が、複数の抵抗力のあるフラップ、１つのクリップ、１つの留め金、１つのクランプ、１つのリング、１つの紐を備えた開口のいずれかであることを特徴とする、請求項１に記載の食器セット。

【請求項２１】

前記底部が、前記側壁部に囲まれた外周よりも大きい幅を有することを特徴とする、請求項１に記載の食器セット。

【請求項２２】

食品容器であって、

概ね平らな底部と、

前記底部上方に配置されたボウル部と、

前記ボウル部の外周を囲み、前記ボウル部上方に垂直方向に延伸され、空間を定義する概ね直立した側壁部を含み、前記ボウル部が、前記ボウル部の一側が底部上で前記ボウル部の相対する一側より高くなるように形成された垂直方向の傾斜を備え、前記垂直方向の傾斜によって、前記空間に深い区域と浅い区域が定義され、

前記側壁部が概ね滑らかな内側表面を備え、

前記空間内に入れられた食品が前記空間の深い区域に集まるように前記垂直方向の傾斜が構成されたことを特徴とする、

10

20

30

40

50

食品容器。

【請求項 2 3】

さらにスプーンを含み、前記スプーンが、つぼ部と、前記つぼ部の第 1 端部から延伸されたハンドル部と、前記ハンドル部に相対する前記つぼ部の端部に沿って配置された先端部と、を含み、前記ハンドル部が、前記つぼ部の第 1 端部から弧に沿って延伸されたことを特徴とする、請求項 2 2 に記載の食品容器。

【請求項 2 4】

液体容器であって、

概ね平らな底部と、

前記底部上方に配置されたボウル部と、

前記ボウル部の外周を囲み、前記ボウル部に対して垂直方向に延伸され、空間を定義する概ね直立した側壁部を含み、前記ボウル部が、前記ボウル部の一側が底部上で前記ボウル部の相対する一側より高くなるように形成された垂直方向の傾斜を備え、前記垂直方向の傾斜によって、前記空間が深い区域と浅い区域に区分され、

さらに前記側壁部の上表面に沿って装着機構により前記容器に取り付けられるように構成された着脱自在の蓋と、

前記側壁部の一部分に沿って前記容器に接続されたハンドル部を含み、前記ハンドル部が前記底部の一部分に接続された安定化部分を備え、前記安定化部分の底面側表面が前記底部の底面側表面に沿った前記底部に平行になるように延伸され、

前記ハンドル部が人の指の幅に概ね相当する幅を有する溝部を含むことを特徴とする、液体容器。

【請求項 2 5】

配膳トレイであって、

平坦な表面と、

前記平坦な表面の相対する端部に設けられた複数のハンドル部と、

前記平坦な表面の少なくとも 1 つの端部に沿って配置された複数の固定機構を含み、前記複数の固定機構が前記トレイによだれ掛けを固定できるように構成されたことを特徴とする、

配膳トレイ。

【請求項 2 6】

障害者の食事を補助するための食器セットの製造方法であって、容器を形成する工程 (a) を含み、前記工程 (a) が、

(a . 1) ボウル部上方に概ね直立した側壁部を設けて空間を定義する工程と、

(a . 2) 前記ボウル部の一側が底部上で前記ボウル部の相対する一側より高くなるように、前記ボウル部に垂直方向の傾斜を形成し、前記垂直方向の傾斜によって、前記空間に深い区域と浅い区域が定義され、前記空間内に入れられた食品が前記空間の深い区域に向かって集まるように構成する工程と、

を含むことを特徴とする、

食器セットの製造方法。

【請求項 2 7】

前記工程 (a) がさらに、前記側壁部の一部分に沿ってタブを延伸し、空間の深い区域の方向を示す工程を含むことを特徴とする、請求項 2 6 に記載の食器セットの製造方法。

【請求項 2 8】

前記工程 (a) がさらに、前記側壁部の外周を円形リップ部で囲み、前記円形リップ部を前記側壁部から外側に向かって上向きに延伸させる工程を含むことを特徴とする、請求項 2 6 に記載の食器セットの製造方法。

【請求項 2 9】

さらに前記側壁部の上表面に沿って装着機構により前記容器に取り外し可能に取り付けられるように構成された着脱自在の蓋を形成する工程を含むことを特徴とする、請求項 2 6 に記載の食器セットの製造方法。

【請求項 30】

前記側壁部外側表面の少なくとも一部分に沿って前記容器に接続されたハンドル部を形成し、前記ハンドル部の安定化部分が、前記容器底部の一部分に沿って前記容器に接続され、前記ハンドル部の安定化部分の底面側表面が前記底部の底面側表面に平行になるように構成する工程を含むことを特徴とする、請求項 26 に記載の食器セットの製造方法。

【請求項 31】

前記ハンドル部の内側表面に、人の指の幅に概ね相当する幅を有する溝部を設けたことを特徴とする、請求項 30 に記載の食器セットの製造方法。

【請求項 32】

さらに、スプーンを形成する工程 (b) を含み、前記工程 (b) が、(b. 1) ハンドル部からつぼ部の第 1 端部を延伸する工程と、(b. 2) 前記ハンドル部に相対する前記つぼ部の端部に沿って先端部を形成する工程と、(b. 3) 前記つぼ部の側面端部の曲率が、前記容器の側壁部の曲率に水平軸に沿って概ね適合するように構成する工程と、を含むことを特徴とする、請求項 26 に記載の食器セットの製造方法。

【請求項 33】

前記工程 (b. 1) がさらに、前記スプーンの手柄部を弧形に構成する工程を含むことを特徴とする、請求項 32 に記載の食器セットの製造方法。

【請求項 34】

前記工程 (b) がさらに、前記スプーンの手柄部の曲率が、前記容器のボウル部の曲率に垂直軸に沿って概ね適合するように構成する工程を含むことを特徴とする、請求項 32 に記載の食器セットの製造方法。

【請求項 35】

さらに配膳トレイを形成する工程を含み、前記工程が、前記容器を支持するための平坦な表面を備えた前記配膳トレイを構成する工程と、前記平坦な表面の相対する端部に複数のハンドル部を形成する工程と、前記平坦な表面の少なくとも 1 つの端部に沿って、複数の固定機構を形成する工程と、を含み、前記複数の固定機構が前記トレイによだれ掛けを固定できるように構成されたことを特徴とする、請求項 26 に記載の食器セットの製造方法。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は全般に障害者向け食器に関し、特に、アルツハイマー病など認知障害を持つ患者向けの食器に関する。

【背景技術】**【0002】**

< 関連出願の相互参照 >

本出願は、Y a o の 2014 年 4 月 27 日に提出された米国仮特許出願第 61 / 984, 847 号の関連出願であり、その全体が本明細書に参考として組み込まれる。

【0003】

< 著作権通知 >

本特許書類の開示部分は、著作権保護の対象である。著作権所有者は、特許商標庁の特許ファイル又は記録に表示される形で、何人かによって特許開示が複製されることに対しては異論を唱えないが、それ以外には一切の著作権の権利を留保する。

【0004】

障害者の介助者にとって、一人の介助者が同時におよび（または）一定時間内に世話をすることができる障害者の数を増やすため、および介助者が補助を提供できる効率および（または）有効性を向上するために役立つツールや解決策を見つけることは、大きな関心事である。これは、より良いツールによって個人に提供される直接的な介護の長さを減少することができ、それによって障害者がより独立して日常の機能を行うことが可能になるためである。

10

20

30

40

50

アルツハイマー病などの認知障害を持つ認知障害者は、場合によっては重度に認識能力が損なわれている場合があり、食品の摂取または食べるという作業の実施中など基本的な生理的ニーズの実施に関わる問題を引き起こすことがある。

【 0 0 0 5 】

残念ながら従来の食器セット（皿や食器用器具など）および障害者補助向けのソリューションでさえも、介助者の障害者介助にかかる時間の短縮には通常不十分である。

従来の方法の一例は、１つ以上の滑り止めパッドベースを食器（例：皿、カップ、碗など）に取り付けたものである。しかしながら、滑ったりこぼしたりすることを減らす効果はあるかもしれないが、これらの解決策は自分で食べることを促進したり、障害者の食事介助中に介助者の時間と注意を必要とするその他の不便さを解決したりするには至らない。

10

先行技術の別の例としては、特定の色（例：赤）で皿を色付けして障害者、特にこの場合アルツハイマー病の患者の食欲を増進する方法がある。これは、患者が食事中徐々に食欲を失うことがよくあり、適切な食品の摂取を確保するためにはずっと監視している必要があるためである。しかしながら、この先行技術の方法は、トマトやいちご、すいか、赤ピーマンなどの一般的な食品を含め、天然の色が赤の食品で使用すると、その有効性が大幅に低下する。

【 0 0 0 6 】

さらに、アルツハイマー病患者は従来の食器の使用に際して他の問題に直面する場合がある。例えば、アルツハイマー病患者の中には、特定の食品がスプーンで食べにくかったり、皿の模様や飾りが食品に似ていて使用者を混乱させたりすることがある。不適切な食器による事故で障害者自身または他者がけがをすることがある。特に、従来のスプーン的设计は碗から食品をすくい取ることが難しく、うっかり食品をこぼしてしまう可能性がある。同様に、従来の設計のカップ（またはその他飲料容器）は使用者が倒してこぼしやすく、障害者の喉に詰まる危険を生じやすい。

20

カップから液体を飲む（すする）ためのよく知られた解決策にストローがある。しかしながら、ストローは従来のカップの設計において一定の位置に固定されておらず、使用者にとって更なる困難を生じる。

【 発明の概要 】

【 発明が解決しようとする課題 】

30

【 0 0 0 7 】

本発明の先行技術の不足点を克服するために必要とされており、開発された障害者向け食器セットは、障害者が食べることの難しさを緩和し、食品摂取量を増加することで、介助者をアシストする、障害者向け食器を提供することが目的である。

【 課題を解決するための手段 】

【 0 0 0 8 】

前述およびその他の目的と利点を達成するため、本発明の１つ以上の実施態様によれば、本発明は、食品容器、スプーン、飲料容器を含む、障害者向け食器セットを提供する。

【 0 0 0 9 】

本発明の請求する１つ以上の態様によれば、本発明の食器セットは、障害者用の食品容器を含み、前記食品容器が、（ a ）概ね平らな底部と、（ b ）前記概ね平らな底部の外周を囲み、かつ前記概ね平らな底部に対して垂直に延伸された概ね平滑な側壁部と、（ c ）垂直方向に傾斜したボウル部と、（ d ）前記側壁部に接続された円形リップ部と、を含む。

40

本発明の請求する別の実施態様によれば、本発明の食器セットは、さらに（ e ）リップ部に接続され、前記リップ部から外側に延伸された円形リム部を含む。１つ以上の実施態様において、前記食器セットは、円形リム部がない１つ以上の食品容器と、円形リム部を含む１つ以上の食品容器を含む。

【 0 0 1 0 】

本発明の請求する１つ以上の態様によれば、本発明の食器セットは、障害者用の改良型ス

50

ブーンを含み、前記改良型スプーンが、(a) ハンドル部を握ったときの人の手の自然な曲率に近い湾曲したハンドル部と、(b) 前記ハンドル部に接続された丸いつぼ部と、(c) 前記ハンドル部に対して前記つぼ部の反対側に沿って配置された端部を含む。

本発明の請求する別の実施態様によれば、前記改良型スプーンはさらに深型つぼ部を備えることができ、より多くの量を扱うため、および(または)スープ、煮込み、ゼラチンなどの液体や半固形食品を扱うために使用することができる。1つ以上の実施態様において、前記食器セットは、液体/半固形物用の深型つぼ部を備えた少なくとも1つの改良型スプーンと、固形食品を扱うために使用する一般型つぼ部を備えた少なくとも1つの改良型スプーンを含む。

【0011】

10

本発明の請求する1以上の態様によれば、本発明の食器セットは、障害者用の飲料容器を含み、前記飲料容器が、(a) 概ね平滑な側壁部と、(b) 垂直方向に傾斜した表面を含む丸いボウル部と、(c) 表面が平らな底部と、(d) 前記側壁部に接続された円形リップ部を含み、前記表面が平らな底部上に前記丸いボウル部が配置され、前記表面が平らな底部が前記平滑な側壁部よりも広い外周を備えている。

本発明の請求する別の実施態様によれば、前記飲料容器はさらに、(e) 前記側壁部に接続されたハンドル部を含み、前記ハンドル部が、前記側壁部および前記表面が平らな底部とで開口を形成する湾曲構造部を含み、上部が前記側壁部に接続されたトップ部と、前記表面が平らな底部に接続されたボウル部を含む。1つ以上の実施態様において、前記ハンドル部は、前記飲料容器が平坦な表面上に置かれたとき、前記ハンドル部の一部が表面に接触するように構成される。

20

本発明の請求する1つ以上の別の実施態様によれば、前記ハンドル部は、前記ハンドル部のトップ部の下面に沿って溝部が形成され、人の手の1本以上の指が前記ハンドル部の溝部から垂直に延伸されたとき、前記飲料容器が前記ハンドル部によって支持されるように構成される。1つ以上の実施態様において、前記食器セットは少なくとも1つのハンドル部のない飲料容器と、少なくとも1つのハンドル部を含む飲料容器を含む。

【0012】

本発明の請求する1つ以上の態様によれば、本発明の食器セットは、障害者および(または)障害者の介助者用の配膳トレイを含み、前記配膳トレイが、(a) 概ね平らな底面部と、(b) 前記概ね平らな部分の1つ以上の側部に沿って配置された1つ以上のハンドル部と、(c) 前記概ね平らな部分の正面端部に沿って配置された複数の開口と、(d) 各複数の開口内に配置されたV字形フランジリングを含み、前記V字形フランジリングがよだれ掛けまたはエプロンの下縁を固定することができる。

30

本発明の請求する別の実施態様によれば、前記配膳トレイはさらに(e) 前記概ね平らな底面部に、前記概ね平らな底面部を複数の個別のコンパートメントに区分する1つ以上の隆起部を含む。1つ以上の実施態様において、前記配膳トレイのコンパートメントは、少なくとも1つの前記食品容器および(または)前記飲料容器の底部の一般的な大きさと形状に適合する。

【0013】

本発明の請求する1つ以上の態様によれば、ここで説明される食器セットを製造するためのプロセスが提供される。1つ以上の実施態様において、前記食器セットを製造するための前記プロセスは、垂直方向に傾斜したボウル部を備えた1つ以上の容器を形成する工程と、前記1つ以上の容器の内側表面の曲率に適合する曲率を備えた1つ以上のスプーンを形成する工程と、前記1つ以上の容器と前記1つ以上のスプーンを運ぶための配膳トレイを形成する工程と、を含み、前記配膳トレイが、配膳中に前記配膳トレイにシートや布、その他適切な素材を固定するための固定機構を含み、食品をこぼしたり、落としたりすることがないように、ネットおよび(または)容器のようなものを提供する。

40

【0014】

本発明のこれらおよびその他の特徴ならびに特性と、構造の関連構成要素および部分の組み合わせの動作の方法ならびに機能と、製造の経済性とは、(付随する、または本発明

50

での出願の参照により組み込まれる) 図面を参照して、以下の説明および添付の特許請求の範囲を検討することによってより明白となり、その図面は本明細書の一部を形成し、同様の参照番号が種々の図中の対応する部分を指定する。

しかしながら、図面は、例証および説明の目的にすぎず、本発明の限定の定義として意図されないことを明示的に理解されたい。本明細書および特許請求の範囲において使用される単数形の「１つ」、「一」、「その」などは、文脈上明確に記載されていない限り、複数形の意味を含む。

【 0 0 1 5 】

本発明のその他利点と特徴は、以下の説明からより明白になり、付随する請求項に記載された手段および組み合わせによって実現されるであろう。

10

【 0 0 1 6 】

添付図面は本明細書に含まれ、その一部を構成し、本発明の実施の形態を示し、その記述と共に本発明の原理を説明するために用いられる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 7 】

【 図 1 】 本発明の 1 つ以上の実施態様による食品容器の立体外観図である。

【 図 2 】 本発明の 1 つ以上の実施態様による食品容器の側面図 1 である。

【 図 3 】 本発明の 1 つ以上の実施態様による食品容器の端面図である。

【 図 4 】 本発明の 1 つ以上の実施態様による食品容器の上面図である。

【 図 5 】 本発明の 1 つ以上の実施態様による食品容器の側面図 2 である。

20

【 図 6 】 本発明の 1 つ以上の実施態様による縁付き食品容器の立体外観図である。

【 図 7 】 本発明の 1 つ以上の実施態様による縁付き食品容器の側面図 1 である。

【 図 8 】 本発明の 1 つ以上の実施態様による縁付き食品容器の端面図である。

【 図 9 】 本発明の 1 つ以上の実施態様による縁付き食品容器の上面図である。

【 図 1 0 】 本発明の 1 つ以上の実施態様による縁付き食品容器の側面図 2 である。

【 図 1 1 】 本発明の 1 つ以上の実施態様によるハンドル部を備えた縁付き食品容器の立体外観図である。

【 図 1 2 】 本発明の 1 つ以上の実施態様によるハンドル部を備えた縁付き食品容器の側面図 1 である。

【 図 1 3 】 本発明の 1 つ以上の実施態様によるハンドル部を備えた縁付き食品容器の側面図 2 である。

30

【 図 1 4 】 本発明の 1 つ以上の実施態様による液体容器の立体外観図である。

【 図 1 5 a 】 本発明の 1 つ以上の実施態様による第 1 固定機構を備えた容器蓋の側面図である。

【 図 1 5 b 】 本発明の 1 つ以上の実施態様による第 2 固定機構を備えた容器蓋の側面図である。

【 図 1 6 a 】 本発明の 1 つ以上の実施態様による容器蓋の上面図である。

【 図 1 6 b 】 本発明の 1 つ以上の実施態様によるストロー用開口を備えた容器蓋の上面図である。

【 図 1 7 】 本発明の 1 つ以上の実施態様による液体容器の側面図である。

40

【 図 1 8 】 本発明の 1 つ以上の実施態様によるハンドル部を備えた液体容器の立体外観図である。

【 図 1 9 】 本発明の 1 つ以上の実施態様によるハンドル部を備えた液体容器の側面図である。

【 図 2 0 a 】 本発明の 1 つ以上の実施態様によるテーブルスプーンの立体外観図 1 である。

【 図 2 0 b 】 本発明の 1 つ以上の実施態様によるスプーンのスプーンの立体外観図 1 である。

【 図 2 1 a 】 本発明の 1 つ以上の実施態様によるテーブルスプーンの正面図である。

【 図 2 1 b 】 本発明の 1 つ以上の実施態様によるスプーンのスプーンの正面図である。

【 図 2 2 a 】 本発明の 1 つ以上の実施態様によるテーブルスプーンの側面図である。

50

【図 2 2 b】本発明の 1 つ以上の実施態様によるスプーンの側面図である。

【図 2 3 a】本発明の 1 つ以上の実施態様によるテーブルスプーンの立体外観図 2 である。

【図 2 3 b】本発明の 1 つ以上の実施態様によるスプーンの立体外観図 2 である。

【図 2 4】本発明の 1 つ以上の実施態様による容器の第 1 曲率に対するスプーンの第 1 曲率を示す立体外観図である。

【図 2 5】本発明の 1 つ以上の実施態様による容器の第 2 曲率に対するスプーンの第 2 曲率を示す立体外観図である。

【図 2 6】本発明の 1 つ以上の実施態様による配膳トレイの上面図である。

【図 2 7】本発明の 1 つ以上の実施態様による配膳トレイの正面図である。

【図 2 8】本発明の 1 つ以上の実施態様による配膳トレイの側面図である。

【図 2 9】本発明の 1 つ以上の実施態様による配膳トレイによだれ掛けが固定された状態の上面図である。

【図 3 0】本発明の 1 つ以上の実施態様による食器セットの立体外観図である。

【図 3 1】本発明の 1 つ以上の実施態様による食器セットの製造プロセスのフローチャートである。

【発明を実施するための形態】

【0018】

以下の説明は当業者が本発明を製作し、使用できるように開示されるものである。以下の説明の好ましい実施態様は、例示のみを目的として提供され、当業者であれば変更が可能である。以下の説明で定義される全般的原則は、本発明の精神及び範囲から逸脱することなく、その他の実施態様、代替形態、変更形態、相当形態、適用形態にも適用される。

【0019】

本発明では、障害者の食事を補助するための食器セットが考案された。本発明は現時点で最も実用的であり且つ好適であると考えられるものに基づく例示の目的のために本発明を詳細に記載したが、そのような詳細は専らその目的のためであること、及び、本発明は開示の実施態様に限定されず、むしろ付属の請求項の精神及び範囲内にある変更及び均等構成をカバーすることが意図されることが理解されるべきである。例えば、本発明は、可能である限り、任意の実施態様の 1 つ又はそれよりも多くの特徴を任意の他の実施態様の 1 つ又はそれよりも多くの特徴と組み合わせ得ることが理解されるべきである。

【0020】

1 つ以上の実施態様によれば、本発明の食器セットは、皿、碗、ハンドル部のないカップ、ハンドル部のあるカップ、2 つのサイズが異なるスプーン、トレイを含む異なる容器のセットを含み、そのうち皿、碗、カップ、スプーン、トレイのいずれも単独で、または相互に組み合わせて使用することができる。

【0021】

障害者をアシストするために考案された食器の一態様によると、食品の小片を出すための食品容器が提供される。1 つ以上の実施態様において、前記食品容器は、例えば、皿、碗、大皿、またはその他皿類などの食品を出すために適した任意の容器を含むことができる。

図 1 に例示の容器 100 の立体外観図を示す。図 1 に示すように、容器 100 は、ボウル部 103 の外周を囲む（好ましくは円形の）連続した側壁部 101 を含み、それが前記容器内の容積を決定する。図 1 に示すように、前記側壁部 101 は前記ボウル部 103 から垂直方向に延伸され、その表面を利用して食品の小片を（食事用器具で）容易に掏うことができ、同時に容器 100 内の食品の小片または液体が意図せずこぼれたり、容器から不適切に掏い出されたりしないようにすることができる。1 つ以上の実施態様において、前記側壁部 101 は滑らかな内側表面を備え、前記側壁部 101 の外側表面は滑らか、またはテクスチャ加工（取扱いを容易にするため）、あるいは両方の組み合わせとすることができる。

【0022】

10

20

30

40

50

1つ以上の実施態様において、前記側壁部101の外側表面は、その中身に対する使用者の興味を刺激するために特徴的な色で色づけされる。例えば、明るい赤や黄などの明るい色や高コントラストの色を使用して、使用者の空腹を刺激し、および（または）食品の小片を食べることに対する使用者の関心を高めることができる。

そのような実施態様によると、前記食品容器100の外側表面は赤（または黄色）一色、または概ね赤（または黄色）の色の組み合わせの模様で色づけることができ、前記食品容器100の内側表面（前記側壁部101の内側表面と前記ボウル部103の上面を含む）は概ねコントラストを成す色、好ましくは食品には少ない色で色づけることができる。例えば、食品容器100の内側表面には青一色、または概ね青の模様を用いてもよい。

10

【0023】

1つ以上の実施態様によれば、前記ボウル部は垂直方向に傾斜され、容器内に入れられた食品の小片が垂直方向の傾斜によって形成されたより深い部分に（重力で）自然に集まるように構成される。さらに1つ以上の実施態様によれば、前記側壁部101の一侧は完全に、または概ね垂直であり、一方で前記側壁部101の反対側は弧に沿って延伸される。1つ以上の実施態様において、前記より深い部分に近接する前記側壁部101の一侧は、完全に、または概ね垂直であり、より浅い部分に近接する前記側壁部101の一侧は弧に沿って延伸される。

1つ以上の実施態様において、前記容器100はさらに、前記側壁部101から概ね水平に延伸されたタブ105を備えてもよい。前記タブ105を使用して、例えば、前記容器100を握ったときのサポートが提供される、または前記容器100内部に入れられた食品の小片の温度が極端な場合、前記容器100を手で持って運ぶとき前記タブ105を持つことで絶縁機能が提供される。さらに前記タブ105は、付属器官と前記容器100内に入れられた食品の小片との間に、例えば衛生目的で、追加の分離作用も提供する。

20

また、前記タブ105は、前記容器100の方向について提供者または介助者に視覚的識別機能も提供する。例えば、前記タブ105は前記容器100の垂直方向の傾斜によって形成された前記より深い部分の反対側に相当する浅い部分に合わせて配置することができる。したがって、前記タブ105は使用者に対する前記容器100の適切な位置を提供者または介助者が判断するための視覚的マーカーとしても作用することができる。

30

【0024】

図2に例示の容器200の側面図を示す。図2に示すように、容器200は連続した側壁部201、概ね平らな底面部207、前記平らな底面部207上に配置され、かつ前記側壁部201に囲まれた垂直方向に傾斜したボウル部203、前記側壁部201から延伸されたタブ205を備えている。一実施態様において、前記側壁部201とタブ205は、図1に示した上述の前記側壁部101とタブ105に相似している。

図2に示すように、前記容器内部の空間容積は前記ボウル部203の上表面と前記側壁部201の組み合わせによって定義される。前記ボウル部203の垂直方向の傾斜によって、前記容器200内で浅い区域Aとより深い区域Bが定義される。図2に示すように、前記より深い区域Bに対応する前記側壁部201の一侧は、前記ボウル部203から垂直（例：前記底面部207に対して概ね直角）にまっすぐ延伸され、前記浅い区域Aに対応する前記側壁部201の一侧は、垂直方向に弧に沿って延伸される。

40

【0025】

下への傾き（傾斜）と前記ボウル部203の滑らかな表面により、食品の小片が当初前記浅い区域Aに入れられていても、および（または）前記より深い区域B内の食品の小片が食されるにつれて、重力によって前記容器内の前記より深い区域Bに自然に何度も集まる。一実施態様によれば、前記ボウル部203の垂直方向の傾斜は、線形または実質的に線形の傾斜表面に近似する。別の一実施態様によれば、前記ボウル部203は凹形の軌道に近似してもよい。また前記より深い区域Bに隣接する垂直にまっすぐの前記側壁部201は、食品の小片を掬い取るためのより大きな表面を提供し、比較的高い側壁部201が前記容器200の外にこぼれないように防止する。

50

【 0 0 2 6 】

図 2 に示すように、前記タブ 2 0 5 は、位置決定を目的として、前記浅い区域 A と同じ側に配置される。底部 2 0 7 は、1 つ以上の実施態様において、ゴムなどの滑り止め素材で構成し、移動を規制および（または）減少することができる。さらに別の実施態様において、前記底面部 2 0 7 の外側（下向きの）表面は、追加の特徴を含んでもよい（例：偶発的な接触のため）。これらの特徴には、例えば、移動をより一層規制および（または）減少するために、隆起部、パッド、凸部などが含まれる。

【 0 0 2 7 】

図 3 に例示の容器 3 0 0 の端面図を示す。図 2 と同じように、図 3 に示す容器 3 0 0 も、連続した側壁部 3 0 1、概ね平らな底面部 3 0 7、前記平らな底面部 3 0 7 上に配置され、かつ前記側壁部 3 0 1 に囲まれた垂直方向に傾斜したボウル部 3 0 3、前記側壁部 3 0 1 から延伸されたタブ 3 0 5 を備えている。一実施態様において、図 3 の前記側壁部 3 0 1、ボウル部 3 0 3、タブ 3 0 5、底面部 3 0 7 は、類似の番号が付された要素である上述の図 1 の側壁部 1 0 1、タブ 1 0 5、上述の図 2 のボウル部 2 0 3、底面部 2 0 7 にそれぞれ相似している。

10

図 3 に示すように、前記タブ 3 0 5 は、前記容器 3 0 0 の傾斜されたボウル部 3 0 5 の最も高い点と同じ端部または一側に配置され、前記容器の浅い区域 A のマーカーとして作用する。つまり、前記タブ 3 0 5 は前記容器の同じ（浅い）側の前記側壁部 3 0 1 の外側表面に接続され、前記傾斜されたボウル部 3 0 5 は、傾斜されたボウル部 3 0 5 と前記側壁部 3 0 1 の内側表面の交点から下側に傾斜される。

20

【 0 0 2 8 】

図 4 に例示の容器 4 0 0 の上面図を示す。図 4 に示す容器 4 0 0 も、連続した側壁部 4 0 1、垂直方向に傾斜したボウル部 4 0 3、前記側壁部 4 0 1 から延伸されたタブ 4 0 5 を含む。一実施態様において、図 4 の側壁部 4 0 1、ボウル部 4 0 3、タブ 4 0 5 は、類似の番号が付された要素である上述の図 1 の側壁部 1 0 1、タブ 1 0 5、上述の図 2 のボウル部 2 0 3 にそれぞれ相似している。

図 4 に示すように、浅い区域 A が前記容器 4 0 0 の一端（例：図 4 の容器の左側の端）に形成され、より深い区域 B が前記容器 4 0 0 の反対側の一端（例：図 4 の容器の右側の端）に形成される。1 つ以上の実施態様において、前記タブ 4 0 5 は前記側壁部 4 0 1 の外側表面上に設けられ、垂直方向に傾斜したボウル部（図示しない）が、前記容器 4 0 0 の前記タブ 4 0 5 と同じ一端の前記側壁部 4 0 1 の内側表面から前記底部 4 0 3 上に形成される。図 4 に示すように、タブ 4 0 5 は垂直方向に傾斜したボウル部 4 0 3 によって定義される浅い区域と同じ前記容器 4 0 0 の一側に沿って配置してもよい。別の実施態様において、タブ 4 0 5 は垂直方向に傾斜したボウル部 4 0 3 によって定義されるより深い区域 B と同じ前記容器 4 0 0 の一側に沿って配置してもよい。

30

【 0 0 2 9 】

図 5 に例示の容器 5 0 0 の側面図 2 を示す。具体的に、図 5 は上述の図 2 に示す例示の容器 2 0 0 を回転させた図である。一実施態様において、図 5 の連続した側壁部 5 0 1、概ね平らな底部 5 0 7、前記平らな底部 5 0 7 上に配置され、かつ前記側壁部 5 0 1 に囲まれた垂直方向に傾斜したボウル部 5 0 3、前記側壁部から延伸されたタブ 5 0 5 の要素は、類似の番号が付された要素である上述の図 1 の側壁部 1 0 1、タブ 1 0 5、および上述の図 2 のボウル部 2 0 3 と底面部 2 0 7 にそれぞれ相似している。

40

図 5 に示すように、タブ 5 0 5 は垂直方向に傾斜したボウル部 5 0 3 によって定義される浅い区域と同じ前記容器 5 0 0 の一側上に配置してもよい。別の実施態様において、タブ 5 0 5 は垂直方向に傾斜したボウル部 5 0 3 によって定義されるより深い区域 B と同じ前記容器 5 0 0 の一側に沿って配置してもよい。

【 0 0 3 0 】

図 6 に例示の縁付き食品容器 6 0 0 の立体外観図を示す。図 6 に示す縁付き食品容器 6 0 0 は、連続した側壁部 6 0 1、垂直方向に傾斜したボウル部 6 0 3、前記縁付き食品容器 6 0 0 から（垂直に、または概ね垂直に）延伸されたタブ 6 0 5 を含む。一実施態様に

50

において、図 6 の側壁部 6 0 1、ボウル部 6 0 3、タブ 6 0 5 は、類似の番号が付された要素である上述の図 1 の側壁部 1 0 1、タブ 1 0 5、上述の図 2 のボウル部 2 0 3 に相似している。示されているように、図 6 は前記側壁部 6 0 1 の上部を囲む縁またはリップ部 6 0 9 も含む。

一実施態様において、前記側壁部 6 0 1 から延伸される代わりに、タブ 6 0 5 は前記リップ部 6 0 9 の拡張として形成される。1 つ以上の実施態様において、前記リップ部 6 0 9 は前記縁付き食品容器 6 0 0 の中心から外側に向かって若干上向きの角度で延伸され、リップ部 6 0 9 上に落ちた食品の小片や液体の滴が前記縁付き食品容器 6 0 0 内の容積空間に向かって滑り落ち、そこで集められやすくなるように構成される。

【 0 0 3 1 】

図 7 に例示の縁付き食品容器 7 0 0 の側面図を示す。図 7 に示すように、縁付き容器 7 0 0 は連続した側壁部 7 0 1、概ね平らな底面部 7 0 7、前記平らな底面部 7 0 7 上に配置され、かつ前記側壁部 7 0 1 に囲まれた垂直方向に傾斜したボウル部 7 0 3、前記側壁部の上部を囲むリップ部 7 0 9、前記リップ部 7 0 9 の一部分から延伸されたタブ 7 0 5 を備えている。一実施態様において、前記側壁部 7 0 1 とタブ 7 0 5 は、図 1 に示した上述の前記側壁部 1 0 1 とタブ 1 0 5 に相似している。ボウル部 7 0 3 と底部 7 0 7 は、上述の図 2 で説明されたボウル部 2 0 3 および底面部 2 0 5 と相似しており、リップ部 7 0 9 は上述の図 6 で説明されたリップ部 6 0 9 に相似している。

図 7 に示すように、タブ 7 0 5 は垂直方向に傾斜したボウル部 7 0 3 によって定義される浅い区域と同じ前記縁付き食品容器 7 0 0 の一側に沿って配置してもよい。別の実施態様において、タブ 7 0 5 は垂直方向に傾斜したボウル部 7 0 3 によって定義されるより深い区域 B と同じ前記縁付き食品容器 7 0 0 の一側に沿って配置してもよい。

【 0 0 3 2 】

図 8 に例示の縁付き食品容器 8 0 0 の端面図を示す。図 8 に示すように、図 8 の縁付き食品容器 8 0 0 も、連続した側壁部 8 0 1、概ね平らな底面部 8 0 7、前記平らな底面部 8 0 7 上に配置され、かつ前記側壁部 8 0 1 に囲まれた垂直方向に傾斜したボウル部 8 0 3、前記側壁部 8 0 1 の上部を囲み、かつ前記縁付き食品容器 8 0 0 の中心から外側に向かって延伸されたリップ部 8 0 9、前記リップ部 8 0 9 の一部分から延伸されたタブ 8 0 5 を含む。一実施態様において、前記側壁部 8 0 1 とタブ 8 0 5 は、図 1 に示した上述の前記側壁部 1 0 1 とタブ 1 0 5 に相似している。ボウル部 8 0 3 と底部 8 0 7 は、上述の図 2 で説明されたボウル部 2 0 3 および底面部 2 0 5 と相似しており、リップ部 8 0 9 は上述の図 6 で説明されたリップ部 6 0 9 に相似している。

図 8 に示すように、前記タブ 8 0 5 は、前記縁付き食品容器 8 0 0 の傾斜されたボウル部 8 0 5 の最も高い点と同じ端部または一側に配置され、前記容器の浅い区域 A のマーカ―として作用する。

【 0 0 3 3 】

図 9 に例示の縁付き食品容器 9 0 0 の上面図を示す。図 9 に示す縁付き食品容器 9 0 0 も、連続した側壁部 9 0 1、概ね平らな底面部 9 0 7、前記平らな底面部 9 0 7 上に配置され、かつ前記側壁部 9 0 1 に囲まれた垂直方向に傾斜したボウル部 9 0 3、前記側壁部 9 0 9 の上部を囲み、かつ前記縁付き食品容器 9 0 0 の中心から外側に向かって延伸されたリップ部 9 0 9、前記リップ部 9 0 9 の一部分から延伸されたタブ 9 0 5 を含む。一実施態様において、前記側壁部 9 0 1 とタブ 9 0 5 は、図 1 に示した上述の前記側壁部 1 0 1 とタブ 1 0 5 に相似している。ボウル部 9 0 3 と底部 9 0 7 は、上述の図 2 で説明されたボウル部 2 0 3 および底面部 2 0 5 と相似しており、リップ部 9 0 9 は上述の図 6 で説明されたリップ部 6 0 9 に相似している。

図 9 に示すように、浅い区域 A が前記容器 9 0 0 の一端（例：図 9 の容器の左側の端）に形成され、より深い区域 B が前記容器 9 0 0 の反対側の一端（例：図 9 の容器の右側の端）に形成される。1 つ以上の実施態様において、前記タブ 9 0 5 は前記側壁部 9 0 5 の外側表面上に設けられ、垂直方向に傾斜したボウル部（図示しない）が、前記容器 9 0 0 の前記タブ 9 0 5 と同じ一端の前記側壁部 9 0 1 の内側表面から前記底部 9 0 3 上に形成

10

20

30

40

50

される。

【 0 0 3 4 】

図 1 0 に例示の容器 1 0 0 0 の側面図 2 を示す。具体的に、図 1 0 は上述の図 7 に示す例示の容器 7 0 0 を回転させた図である。一実施態様において、図 1 0 の連続した側壁部 1 0 0 1、概ね平らな底部 1 0 0 7、前記平らな底部 1 0 0 7 上に配置され、かつ前記側壁部 1 0 0 1 に囲まれた垂直方向に傾斜したボウル部 1 0 0 3、前記側壁部から延伸されたタブ 1 0 0 5 の要素は、類似の番号が付された要素である上述の図 1 の側壁部 1 0 1、タブ 1 0 5、および上述の図 2 のボウル部 2 0 3 と底面部 2 0 7 にそれぞれ相似している。

図 1 0 に示すように、タブ 1 0 0 5 は垂直方向に傾斜したボウル部 1 0 0 3 によって定義される浅い区域と同じ前記容器 1 0 0 0 の一側上に配置してもよい。別の実施態様において、タブ 1 0 0 5 は垂直方向に傾斜したボウル部 1 0 0 3 によって定義されるより深い区域 B と同じ前記容器 1 0 0 0 の一側に沿って配置してもよい。

【 0 0 3 5 】

図 1 1 に本発明の 1 つ以上の実施態様によるハンドル部 1 1 1 1 を備えた縁付き食品容器 1 1 0 0 の立体外観図を示す。図 1 1 に示す縁付き食品容器 1 1 0 0 は、上述の複数の実施例の説明同様に、連続した側壁部 1 1 0 1、垂直方向に傾斜したボウル部 1 1 0 3、前記側壁部 1 1 0 1 の上部を囲むリップ部 1 1 0 9、前記縁付き食品容器 1 1 0 0 から（垂直に、または概ね垂直に）延伸されたタブ 1 1 0 5 を含む。一実施態様において、図 1 1 の前記側壁部 1 1 0 1、ボウル部 1 1 0 3、タブ 1 1 0 5、リップ部 1 1 0 9 は、類似の番号が付された要素である上述の図 1 の側壁部 1 0 1、タブ 1 0 5、上述の図 2 のボウル部 2 0 3、上述の図 6 のリップ部 6 0 9 にそれぞれ相似している。図に示されるように、図 1 1 は前記リップ部 1 1 0 9 の内側端部に沿って配置された前記側壁部 1 1 0 1 の反対側に、前記リップ部 1 1 0 9 の外側の端に沿って（下向きに）延伸されたパネルにより提供されるハンドル部 1 1 1 1 も含む。

一実施態様において、前記下向きに延伸されたパネルは、パネルと前記側壁部 1 1 0 1 の間に溝部を形成し、（ハンドル部として）握るために適したものとできる。したがって、前記縁付き食品容器 1 1 0 0 の内容物が非常に熱いまたは冷たい、あるいはその他触れるのに不快な場合、前記縁付き食品容器 1 1 0 0 は、前記縁付き食品容器 1 1 0 0 の両側に実質的に触れなくても、確実に運ぶことができる。

【 0 0 3 6 】

図 1 2 に本発明の 1 つ以上の実施態様によるハンドル部 1 2 1 1 を備えた縁付き食品容器 1 2 0 0 の側面図 1 を示す。図 1 2 に示すように、縁付き食品容器 1 2 0 0 は連続した側壁部 1 2 0 1、概ね平らな底面部 1 2 0 7、前記平らな底面部 1 2 0 7 上に配置され、かつ前記側壁部 1 2 0 1 に囲まれた垂直方向に傾斜したボウル部 1 2 0 3、前記側壁部の上部を囲むリップ部 1 2 0 9、前記リップ部 1 2 0 9 の一部分から延伸されたタブ 1 2 0 5、前記側壁部とは反対側の前記リップ部 1 2 0 9 の外側端部に設けられたハンドル部 1 2 1 1 を備えている。

一実施態様において、前記側壁部 1 2 0 7 とタブ 1 2 0 5 は、図 1 に示した上述の前記側壁部 1 0 1 とタブ 1 0 5 に相似している。ボウル部 1 2 0 3 と底部 1 2 0 7 は、上述の図 2 で説明されたボウル部 2 0 3 および底面部 2 0 5 と相似しており、リップ部 1 2 0 9 は上述の図 6 で説明されたリップ部 6 0 9 に相似しており、ハンドル部 1 2 1 1 は上述の図 1 1 で説明されたハンドル部 1 1 1 1 に相似している。

図 1 2 に示すように、タブ 1 2 0 5 は垂直方向に傾斜したボウル部 1 2 0 3 によって定義される浅い区域と同じ前記縁付き食品容器 1 2 0 0 の一側に沿って配置してもよい。別の実施態様において、タブ 1 2 0 5 は垂直方向に傾斜したボウル部 1 2 0 3 によって定義されるより深い区域 B と同じ前記縁付き食品容器 1 2 0 0 の一側に沿って配置してもよい。

【 0 0 3 7 】

図 1 3 に本発明の 1 つ以上の実施態様によるハンドル部 1 3 1 1 を備えた縁付き食品容

10

20

30

40

50

器 1 3 0 0 の側面図 2 を示す。図 1 2 と同様に、図 1 3 の前記縁付き食品容器 1 3 0 0 も、連続した側壁部 1 3 0 1、概ね平らな底面部 1 3 0 7、前記平らな底面部 1 3 0 7 上に配置され、かつ前記側壁部 1 3 0 1 に囲まれた垂直方向に傾斜したボウル部 1 3 0 3、前記側壁部 1 3 0 1 の上部を囲み、前記縁付き食品容器の中央から外側に向かって延伸されたリップ部 1 3 0 9、前記リップ部 1 3 0 9 の一部分から延伸されたタブ 1 3 0 5、前記側壁部とは反対側の前記リップ部 1 3 0 9 の外側端部に設けられたハンドル部 1 3 1 1 を備えている。

一実施態様において、前記側壁部 1 3 0 1 とタブ 1 3 0 5 は、図 1 に示した上述の前記側壁部 1 0 1 とタブ 1 0 5 に相似している。ボウル部 1 3 0 3 と底面部 1 3 0 7 は、上述の図 2 で説明されたボウル部 2 0 3 および底面部 2 0 5 と相似しており、リップ部 1 3 0 9 は上述の図 6 で説明されたリップ部 6 0 9 に相似しており、ハンドル部 1 3 1 1 は上述の図 1 1 で説明されたハンドル部 1 1 1 1 に相似している。

図 1 3 に示すように、前記タブ 1 3 0 5 は、前記縁付き食品容器 1 3 0 0 の傾斜されたボウル部 1 3 0 5 の最も高い点と同じ端部または一側に配置され、前記容器の浅い区域 A のマーカーとして作用する。

【0038】

障害者をアシストするために考案された食器の別の一態様によると、流体または液体の形態を出すための液体容器が提供される。1 つ以上の実施態様において、前記液体容器は、例えば、カップ、ピッチャー、マグ、グラス、またはその他液体の形態を収容し、提供するために適した器を含む。図 1 4 に例示の液体容器 1 4 0 0 の立体外観図を示す。

図 1 4 に示すように、液体容器 1 4 0 0 は底面部 1 4 0 3 上に設置された、連続的な直立した側壁部 1 4 0 1 を含む。前記底面部 1 4 0 3 上に配置されたボウル部が、前記直立した側壁部 1 4 0 1 の内側表面によって囲まれ、かつ、前記直立した側壁部 1 4 0 1 との組み合わせによって前記液体容器 1 4 0 0 内の容積を定義する。前記液体容器は前記直立した側壁部 1 4 0 1 の上部が開口しており、液体またはその他物質を前記直立した側壁部 1 4 0 1 と前記ボウル部によって封鎖された容積内に入れることができる。前記開口上を覆うカバーとして着脱自在の蓋 1 4 0 5 を前記液体容器 1 4 0 0 に取り付けることができる。それにより、前記開口から前記液体容器 1 4 0 0 内に物品が落下して入り、内部に入れられた内容物を汚染する可能性を排除し、前記液体容器 1 4 0 0 が横倒しになったり、ひっくり返ったりした場合に前記液体容器 1 4 0 0 内の内容物がこぼれたり漏れ出したりしないようにすることができる。1 つ以上の実施態様において、図 1 のタブ 1 0 5 で説明したように、位置の識別と取り扱いの目的でタブ 1 4 0 9 も含まれる。

【0039】

図 1 4 に示すように、前記直立した側壁部 1 4 0 1 は前記底面部 1 4 0 3 から直立状に延伸される。1 つ以上の実施態様において、複数の前記液体容器 1 4 0 0 を積み重ねることができるように、前記直立した側壁部 1 4 0 1 の外周は、前記底面部 1 4 0 3 から外側に広がっており、前記直立した側壁部 1 4 0 1 上部の開口（かつ延長線で、前記直立した側壁部 1 4 0 1 と前記蓋 1 4 0 5 の交わる箇所）よりも、前記直立した側壁部 1 4 0 1 と前記底面部 1 4 0 3 の交わる箇所のほうが狭くなっている。1 つ以上の実施態様において、前記直立した側壁部 1 4 0 1 は滑らかな内側壁面を有する。前記直立した側壁部 1 4 0 1 の外側表面は、滑らか、またはテクスチャ加工（取扱いを容易にするため）、または両方の組み合わせとすることができる。

【0040】

さらなる実施態様において、前記直立した側壁部 1 4 0 1 の外側表面は、テクスチャ加工した表面の代わりに、またはそれに加えて、掴む動作および（または）取り扱いを改善するための特徴を含む。これらの特徴には、前記液体容器 1 4 0 0 を直立した側壁部 1 4 0 1 で掴んだときに接触する表面面積を増加するための、例えば、隆起部、または指型の溝部、多様に突出した表面（例：「石目」）、または任意のその他機構を含むことができる。

1 つ以上の実施態様によれば、外側表面は、その中身に対する使用者の興味を刺激する

ために特徴的な色で色づけしてもよい。例えば、黄色を使用して使用者の渴きを刺激したり、液体内容物の飲用に対する関心を高めたりしてもよい。そのような実施態様によれば、前記食品容器の外側表面は、赤（または黄色）一色、または概ね黄色の色の組み合わせの模様など、高コントラストの色で色づけすることができる。前記食品容器の内側表面（すなわち、前記直立した側壁部 1401 の内側表面と前記ボウル部の上表面を含む）は、概ねコントラストを成す色、好ましくは食品には少ない色で色づけすることができる。例えば、食品容器の内側表面には青一色、または概ね青の模様を用いてもよい。

【0041】

1つ以上の実施態様において、蓋 1405 を前記液体容器 1400 に取り付けるとき、前記液体容器 1400 内の（好ましくは液体）内容物へのアクセスは、前記蓋 1405 に設けられた開口 1407 を介して提供することができる。例示的状况において、ストローまたはその他管状の物品を前記開口 1407 から、前記液体容器 1400 内の空間に挿入することができる。前記開口 1407 は、前記開口 1407 から挿入されたストローの移動を概ね防止するための特徴を備えてもよい。

図 14 に示すように、これらの特徴は、例えば、前記開口 1407 から挿入されたストロー（またはその他物品）の横方向の移動を概ね防止し、同時に縦（例：進入／後退の軸）方向の移動をあまり規制しない、V 字形のフラップとして実装してもよい。ここでは V 字形のフラップとして説明したが、本発明の請求する発明の別の実施態様には、前記開口 1407 から挿入されるストローまたはその他物品の横方向の位置を固定するためのその他の、または追加の手段を含むことも適していると理解されるべきである。

【0042】

1つ以上の実施態様において、前記底面部 1403 は、滑りを防止する、および（または）滑りにくくするゴムまたはゴム様の材質を含んで形成することができる。さらなる実施態様において、前記底面部 1403 は、前記直立した側壁部 1401 によって囲まれた外周を越えて拡張することで、倒れないように構成される。

図 14 に示すように、前記底面部 1405 は、前記液体容器 1400 の前記直立した側壁部 1401 周囲下方に（例：成型により）設置されたゴムリングとして実装し、カップが倒れないようにすると共に、安定性を提供してもよい。

【0043】

図 15 a に本発明の 1つ以上の実施態様による第 1 固定機構を備えた容器蓋 1500 a の側面図を示す。1つ以上の実施態様において、前記容器蓋 1500 a は、図 14 で説明した液体容器 1400 のような、容器の開口を覆うために構成された平らなカバー 1501 a を含む。1つ以上の実施態様において、前記容器蓋 1500 a は、容器の直立した側壁部（例：図 14 の直立した側壁部 1401）に（固定機構により）物理的に取り付けられる着脱自在のカバーである。図 15 a に示すように、前記固定機構は、前記蓋を前記容器の直立した側壁部の一部に対して固定するように構成されたラッチ 1503 を含んでもよい。

【0044】

図 15 b に本発明の 1つ以上の実施態様による第 2 固定機構を備えた容器蓋 1500 b の側面図を示す。一実施態様において、前記容器蓋 1500 b は容器蓋 1500 a に類似しており、同様に容器の開口を覆うために構成された平らなカバー 1501 b を備えている。しかし、図 15 a の固定機構はラッチ 1503 a を含むが、図 15 b の固定機構は一連の隆起部を含み、それにより容器の直立した側壁部の内側表面上部に設けられた相補的な一連の隆起部に（ひねる動作で）前記蓋を物理的に係合させることができる。他の実施態様も他の、または追加の固定機構に適している。

【0045】

図 16 a に本発明の 1つ以上の実施態様による容器蓋 1600 a の上面図を示す。図 16 a に示すように、容器蓋 1600 a は概ね平らなカバー 1601 a を含み、前記容器蓋 1600 a が対応する容器（例：図 14 の液体容器 1400）に取り付けられたとき、前記液体容器の開口を覆う、または概ね覆うことができる。1つ以上の実施態様において、

前記容器蓋 1 6 0 0 はタブ 1 6 0 3 a も含む。1 つ以上の実施態様において、タブ 1 6 0 3 a は例えば、容器の側壁部の端をてこの支点としたレバーとして作用させることで、容器蓋 1 6 0 0 を容器から外すために使用されてもよい。1 つ以上の実施態様において、タブ 1 6 0 3 a は容器の前記側壁部に接続された前記タブ（例：タブ 1 4 0 9）を置換する。さらなる実施態様において、容器の各側壁部と前記容器蓋（例：容器蓋 1 6 0 0 a）は別個のタブを含んでもよい。

【0046】

図 1 6 b に本発明の 1 つ以上の実施態様による開口 1 6 0 5 b を備えた容器蓋 1 6 0 0 b の上面図を示す。図 1 6 b に示すように、容器蓋 1 6 0 0 b も概ね平らなカバー 1 6 0 1 b を含み、前記容器蓋 1 6 0 0 b が対応する容器（例：図 1 4 の液体容器 1 4 0 0）に取り付けられたとき、前記液体容器の開口を覆う、または概ね覆うことができる。液体容器 1 4 0 0 内に入れられた内容物へのアクセスは、上述の図 1 4 の開口 1 4 0 7 に相似した開口 1 6 0 5 b を通じて達成することができる。図 1 6 b に示すように、タブ 1 6 0 3 b は、容器蓋 1 6 0 0 b の外周に沿って、前記開口 1 6 0 5 b 位置に最も接近した位置に配置される。そうすることで、タブ 1 6 0 3 b は開口 1 6 0 5 b の相対位置を視覚的に示すために用いることができる。

【0047】

図 1 7 に本発明の 1 つ以上の実施態様による液体容器 1 7 0 0 の側面図を示す。図 1 7 に示すように、液体容器 1 7 0 0 は連続的な直立した側壁部 1 7 0 1、概ね平らな底面部 1 7 0 3、前記平らな底面部 1 7 0 3 上に配置され、かつ前記連続的な直立した側壁部 1 7 0 1 に囲まれた垂直方向に傾斜したボウル部 1 7 0 7、カバーとして前記液体容器 1 7 0 0 の上部に取り付けることができる着脱自在の蓋 1 7 0 5 を備えている。

一実施態様において、直立した側壁部 1 7 0 1、底面部 1 7 0 3 は、上述の図 1 4 の側壁部 1 4 0 1 と底面部 1 4 0 3 に相似しており、蓋 1 7 0 5 は上述の図 1 5 a、図 1 5 b、図 1 6 の蓋 1 5 0 0 a、1 5 0 0 b、1 6 0 0 a、1 6 0 0 b のいずれかに相似している。前記垂直方向に傾斜したボウル部 1 7 0 7 は、液体容器 1 7 0 0 内においてより深い区域 B と浅い区域 A を定義し、前記液体容器 1 7 0 0 内に入れられた液体または流体が浅い区域 A から自然に前記より深い区域 B に集まるように構成される。前記蓋 1 7 0 5 は、（容器 1 7 0 0 に取り付けられながらも）ひねる動作でより深い区域 B に揃うように回動させ、前記蓋 1 7 0 5 の開口によって、前記開口からストローを挿入することでより深い区域内の内容物にアクセスすることができ、より深い区域 B 上に直接ストローを保持するように構成される。そのような状態で、ストローの横方向の移動は前記開口内の固定手段によって防止され、さらに、前記液体容器内の内容物が集まるため不要となる。

【0048】

図 1 8 に本発明の 1 つ以上の実施態様によるハンドル部 1 8 0 9 を備えた液体容器 1 8 0 0 の立体外観図を示す。図 1 8 に示すように、液体容器 1 8 0 0 は底面部 1 8 0 3 上に設置された、連続的な直立した側壁部 1 8 0 1 と、蓋 1 8 0 5 を含む。前記蓋 1 8 0 5 に設けられた開口 1 8 0 7 は、前記蓋 1 8 0 5 が液体容器 1 8 0 0 の開口上に取り付けられたとき、前記液体容器 1 8 0 0 内の内容物へのアクセスを提供する。前記底面部 1 8 0 3 上に配置されたボウル部が、前記直立した側壁部 1 8 0 1 の内側表面によって囲まれ、かつ、前記直立した側壁部 1 8 0 1 との組み合わせによって前記液体容器 1 8 0 0 内の容積を定義する。

一実施態様において、前記側壁部 1 8 0 1、底面部 1 8 0 3、蓋 1 8 0 5、開口 1 8 0 7 は、類似の番号が付された要素である上述の図 1 4 の側壁部 1 4 0 1、底面部 1 4 0 3、容器蓋 1 4 0 5、開口 1 4 0 7 に相似している。

【0049】

1 つ以上の実施態様によれば、前記液体容器 1 8 0 0 はハンドル部 1 8 0 9 を含んでもよい。ハンドル部 1 8 0 9 は、液体容器 1 8 0 0 の内容物が触れるのに不快な場合（例：非常に熱い又は冷たい）、掴んで液体容器 1 8 0 0 を運ぶために使用することができる。図 1 8 に示すように、ハンドル部 1 8 0 9 は、前記ハンドル部の上部が前記直立した側壁

部 1 8 0 1 の一区域に結合された、中空の湾曲した棒体として実施される。1 つ以上の実施態様において、前記ハンドル部 1 8 0 9 の下部は、液体容器 1 8 0 0 が置かれる表面（例：テーブル、カウンター、床など）に接触して、または接触しそうに、下方へ延伸される。1 つ以上の実施態様において、前記ハンドル部 1 8 0 9 の下部は、前記底面部 1 8 0 3 の一部に沿って、前記液体容器 1 8 0 0 に結合されてもよい。

図 1 8 に示すように、前記ハンドル部 1 8 0 9 の下部は、その下表面が前記底面部 1 8 0 3 の下表面に平行な平坦部分を含み、前記容器 1 8 0 0 が（テーブルやカウンターなど）平らな表面上に置かれたとき、前記ハンドル部 1 8 0 9 が、前記ハンドル部 1 8 0 9 の平坦部分の下側を向いた表面に沿って前記表面に直接接触することができるよう構成される。前記ハンドル部 1 8 0 9 の平坦部分によって下側の表面積が増加されることで、前記底面部 1 8 0 3 に更なる安定性がもたらされ、うっかり倒してしまうことへの対策として作用する。

【0050】

図に示すように、ハンドル部 1 8 0 9 はさらにハンドル部 1 8 0 9 の下側に沿った溝部 1 8 1 1 も含む。1 つ以上の実施態様において、前記溝部は人の手の指に近い幅としてもよい。そのような実施態様によれば、前記液体容器 1 8 0 0 は、前記溝部 1 8 1 1 が手の一番上の指上に置かれるように、前記ハンドル部 1 8 0 9 の中空部分に手を垂直に挿入することで、支持される。前記溝部によって、前記ハンドル部 1 8 0 9 の湾曲部分、または容器 1 8 0 0 の前記直立した側壁部を掴むことなく、前記液体容器 1 8 0 0 を運ぶことが可能である。これは、関節炎や、ハンドル部を握ることが困難なその他の症状やけがのある使用者に、前記液体容器 1 8 0 0 の取り扱いと持ち運びの快適で安全な方法を提供する。

【0051】

図 1 9 に本発明の 1 つ以上の実施態様によるハンドル部 1 9 0 9 を備えた液体容器 1 9 0 0 の側面図を示す。図 1 9 に示すように、液体容器 1 9 0 0 は連続的な直立した側壁部 1 9 0 1、概ね平らな底面部 1 9 0 3、前記平らな底面部 1 9 0 3 上に配置され、かつ前記連続的な直立した側壁部 1 9 0 1 に囲まれた垂直方向に傾斜したボウル部 1 9 0 7、カバーとして前記液体容器 1 9 0 0 の上部に取り付けることができる着脱自在の蓋 1 9 0 5 を備えている。

一実施態様において、直立した側壁部 1 9 0 1、底面部 1 9 0 3、蓋 1 9 0 5、垂直方向に傾斜したボウル部 1 9 0 7 は、類似の番号が付された要素である上述の図 1 4 の側壁部 1 4 0 1、底面部 1 4 0 3、蓋 1 4 0 5、および上述の図 1 7 の垂直方向に傾斜したボウル部 1 7 0 7 にそれぞれ相似している。図示のとおり、図 1 9 はハンドル部 1 9 0 9 も含む。一実施態様において、前記ハンドル部 1 9 0 9 は、上述の図 1 8 で説明した前記ハンドル部 1 8 0 9 に相似しており、安定化とサポートのために使用することができる。

【0052】

障害者をアシストするために考案された食器のさらに別の一態様によると、固形食品の小片および液体食品を食べるための食事用器具が提供される。1 つ以上の実施態様において、前記食事用器具は、例えば、スプーン（ティースプーン、テーブルスプーン、スプーンなど）、スプーン様の器具（レードル、スクープなど）、またはハイブリッド型スプーン（先割れスプーンなど）を含むことができる。

図 2 0 a に本発明の 1 つ以上の実施態様によるテーブルスプーン 2 0 0 0 a の立体外観図 1 を示す。図 2 0 a に示すように、テーブルスプーン 2 0 0 0 a は、ハンドル部 2 0 0 1 a の端部に連結された浅いボウル部 2 0 0 3 a を含む。1 つ以上の実施態様において、前記ボウル部 2 0 0 3 a は、前記ハンドル部 2 0 0 1 a とは反対側の前記ボウル部 2 0 0 3 a の端部に先端部 2 0 0 5 a が形成される。テーブルスプーン 2 0 0 0 a のボウル部 2 0 0 3 a の深さは、小文字の b で示される。1 つ以上の実施態様において、前記ボウル部 2 0 0 3 a とハンドル部 2 0 0 1 a の交わる箇所に、前記テーブルスプーン 2 0 0 0 a の使用時に食品の小片または液体が前記ハンドル部 2 0 0 1 a に接触することを防止または減少するためのガード部 2 0 0 7 a が設けられる。1 つ以上の実施態様において、前記ハ

ンドル部 2 0 0 1 a はゴムまたは熱可塑性エラストマーのコーティング（例えば成型で設けるなど）を含み、または完全にゴム、ゴムポリマーの混合、あるいはゴム様物質で成るものとしてもよい。1 つ以上のさらなる実施態様において、前記テーブルスプーン 2 0 0 0 a の前記ハンドル部 2 0 0 1 a は、人の手が拳を作ったときまたは物品（例えばテーブルスプーン 2 0 0 0 a）を握ったときの中手指節関節下側の自然な湾曲形状に近い、または概ね近い弧に沿って延伸される。

【 0 0 5 3 】

図 2 0 b に本発明の 1 つ以上の実施態様によるスプースプーン 2 0 0 0 b の立体外観図 1 を示す。図 2 0 b に示すように、スプースプーン 2 0 0 0 b はハンドル部 2 0 0 1 b の端部に連結された浅いボウル部 2 0 0 3 b を含み、前記ハンドル部 2 0 0 1 b とは反対側の前記ボウル部 2 0 0 3 b の端部に先端部 2 0 0 5 b が形成される。一実施態様において、前記ボウル部 2 0 0 3 b、ハンドル部 2 0 0 1 b、先端部 2 0 0 5 b は、類似の番号が付された要素である上述の図 2 0 a のハンドル部 2 0 0 1 a、ボウル部 2 0 0 3 a、先端部 2 0 0 5 a に相似している。

10

前記スプースプーン 2 0 0 0 b のボウル部 2 0 0 3 b の深さは大文字の D で示されており、一実施態様において、前記スプースプーン 2 0 0 0 b のボウル部 2 0 0 3 b の深さは、前記テーブルスプーン 2 0 0 0 a のボウル部 2 0 0 3 a の深さより大きい（つまり、 $D > d$ ）。従って、スプースプーン 2 0 0 0 b は、液体の食品（例えばスープや煮込みなど）やより小さなたくさんの食品の小片を食べる、または飲むときの使用に適している。

【 0 0 5 4 】

20

図 2 1 a に本発明の 1 つ以上の実施態様によるテーブルスプーン 2 1 0 0 a の正面図を示す。このテーブルスプーン 2 1 0 0 a はハンドル部 2 1 0 1 a、ボウル部 2 1 0 3 a、先端部 2 1 0 5 a、ガード部 2 1 0 7 a を含む。一実施態様において、ハンドル部 2 1 0 1 a、ボウル部 2 1 0 3 a、先端部 2 1 0 5 a、ガード部 2 1 0 7 a は、類似の番号が付された要素である上述の図 2 0 a のハンドル部 2 0 0 1 a、ボウル部 2 0 0 3 a、先端部 2 0 0 5 a、ガード部 2 0 0 7 a に相似している。

【 0 0 5 5 】

図 2 1 b に本発明の 1 つ以上の実施態様によるスプースプーン 2 1 0 0 b の正面図を示す。一実施態様において、ハンドル部 2 1 0 1 b、ボウル部 2 1 0 3 b、先端部 2 1 0 5 b、ガード部 2 1 0 7 b は、類似の番号が付された要素である上述の図 2 0 a のハンドル部 2 0 0 1 a、ボウル部 2 0 0 3 a、先端部 2 0 0 5 a、ガード部 2 0 0 7 a に相似している。

30

【 0 0 5 6 】

図 2 2 a に本発明の 1 つ以上の実施態様によるテーブルスプーン 2 2 0 0 a の側面図を示す。一実施態様において、ハンドル部 2 2 0 1 a、ボウル部 2 2 0 3 a、先端部 2 2 0 5 a、ガード部 2 2 0 7 a は、類似の番号が付された要素である上述の図 2 0 a のハンドル部 2 0 0 1 a、ボウル部 2 0 0 3 a、先端部 2 0 0 5 a、ガード部 2 0 0 7 a に相似している。

【 0 0 5 7 】

図 2 2 b に本発明の 1 つ以上の実施態様によるスプースプーン 2 2 0 0 b の側面図を示す。一実施態様において、ハンドル部 2 2 0 1 b、ボウル部 2 2 0 3 b、先端部 2 2 0 5 b、ガード部 2 2 0 7 b は、類似の番号が付された要素である上述の図 2 0 a のハンドル部 2 0 0 1 a、ボウル部 2 0 0 3 a、先端部 2 0 0 5 a、ガード部 2 0 0 7 a に相似している。

40

【 0 0 5 8 】

図 2 3 a に本発明の 1 つ以上の実施態様によるテーブルスプーンの立体外観図 2 を示す。一実施態様において、ハンドル部 2 3 0 1 a、ボウル部 2 3 0 3 a、先端部 2 3 0 5 a、ガード部 2 3 0 7 a は、類似の番号が付された要素である上述の図 2 0 a のハンドル部 2 0 0 1 a、ボウル部 2 0 0 3 a、先端部 2 0 0 5 a、ガード部 2 0 0 7 a に相似している。

50

【 0 0 5 9 】

図 2 3 b に本発明の 1 つ以上の実施態様によるスプーン 2 3 0 1 の立体外観図 2 を示す。一実施態様において、ハンドル部 2 3 0 1 b、ボウル部 2 3 0 3 b、先端部 2 3 0 5 b、ガード部 2 3 0 7 b は、類似の番号が付された要素である上述の図 2 0 a のハンドル部 2 0 0 1 a、ボウル部 2 0 0 3 a、先端部 2 0 0 5 a、ガード部 2 0 0 7 a に相似している。

【 0 0 6 0 】

本発明の請求するさらに別の態様によれば、丸みを帯びた食事用器具（例えば、テーブルスプーンまたはスプーン 2 0 0 0 a、2 0 0 0 b、2 1 0 0 a、2 1 0 0 b、2 2 0 0 a、2 2 0 0 b、2 3 0 0 a、2 3 0 0 b のいずれか）の先端部の曲率は、対応する容器（例えば、食品容器 1 0 0、6 0 0）の側壁部の垂直方向の曲率に特に適合するように構成される。

10

図 2 4 に本発明の 1 つ以上の実施態様による容器 2 4 0 3 の第 1 曲率に対するスプーン 2 4 0 1 の第 1 曲率を示す立体外観図を示す。図 2 4 に示すように、スプーン 2 4 0 1 は、ハンドル部 2 4 0 7、ボウル部 2 4 0 9、先端部 2 4 1 1 を含む。前記ハンドル部 2 4 0 7 を（例えば手 2 4 1 5 で）保持して、前記容器 2 4 0 3 内に入れられた食品の小片または液体の食品を掬うために使用できる。前記容器 2 4 0 3 は、丸みを帯びた外周を有する側壁部 2 4 0 5 を備えている。1 つ以上の実施態様において、前記側壁部 2 4 0 5 の垂直軸に沿った表面もまた湾曲されており、先端部の水平方向の端部に沿った前記スプーン 2 4 0 1 の先端部 2 4 1 1 の曲率が（例えば、点 X で）前記側壁部 2 4 0 5 の垂直方向の曲率に適合し、前記容器 2 4 0 3 の側壁部 2 4 0 5 内側表面に対して（例えば、手 2 4 1 5 によって手動で）押し当てられたとき、前記スプーン 2 4 0 1 の先端部 2 4 1 1 に沿った弧が前記側壁部 2 4 0 5 内側表面に対して、無視できる、または概ね無視できる程度の隙間で同一平面上に沿うように構成される。

20

前記スプーン 2 4 0 1 の先端部 2 4 1 1 の曲率と前記容器 2 4 0 3 の垂直方向の曲率の適合によって、前記容器 2 4 0 3 内のものをより効果的に掬うことができる。特に、本発明で説明したような、食品の小片または液体の食品が集められる非対称のより深い一端を備えた容器において、前記側壁部の曲率の適合は、掬う動作またはかき集める動作の間、スプーンのガイドまたはトラックとして作用することができる。

【 0 0 6 1 】

30

1 つ以上の実施態様において、（図 2 0 a ~ 図 2 3 b に示すような）丸みを帯びた食事用器具の側面端部に沿った曲率は、対応する容器（例えば、食品容器 1 0 0、6 0 0）の側壁部の水平方向の平面に沿った曲率に特に適合するように構成される。

図 2 5 に本発明の 1 つ以上の実施態様による容器 2 5 0 3 の第 2 曲率に対するスプーン 2 5 0 1 の第 2 曲率を示す立体外観図を示す。一実施態様において、スプーン 2 5 0 1 も、ハンドル部 2 5 0 7、ボウル部 2 5 0 9、先端部 2 5 1 1 を含む。前記ハンドル部 2 5 0 7 を（例えば手 2 5 1 5 に）保持して、前記容器 2 5 0 3 内に入れられた食品の小片または液体の食品を掬うために使用できる。図 2 5 に示すように、前記容器 2 5 0 3 は丸みを帯びた外周を備えた側壁部 2 5 0 5 を含む。1 つ以上の実施態様において、前記丸みを帯びた外周の曲率は、1 つ以上の水平方向の平面に沿って、（例えば Y 点で）前記ボウル部 2 5 0 9 の水平方向の端部の曲率に適合する。つまり、前記ボウル部 2 5 0 9 の水平方向の端部が前記容器 2 5 0 3 の側壁部 2 5 0 5 内側表面に対して押し当てられたとき、前記ボウル部 2 5 0 9 の水平方向の端部に沿った弧が前記側壁部の内側表面に対して、無視できる、または概ね無視できる程度の隙間で同一平面上に沿うように構成される。前記スプーン 2 5 0 1 の水平方向端部の適合する曲率は、適合する容器 2 5 0 3 と共同で行われる 1 回の掬う動作の効果と効率も高めることができる。

40

一実施態様によると、前記側壁部（例えば、側壁部 2 5 0 5）の垂直方向の曲率と前記容器（例えば、容器 2 5 0 3）の底面部と前記側壁部 2 5 0 5 が接続する箇所の曲率はいずれもスプーン先端（例えば、2 5 1 1）の曲率とボウル部 2 5 0 9 の水平方向端部の曲率に概ね適合し、スプーン先端 2 5 1 1 とボウル部 2 5 0 9 の水平方向端部のどちらも、

50

前記側壁部 2 5 0 5 および容器 2 5 0 3 のボウル部の両方に沿って同時に容器と連続した接触を保てるように構成される。

【 0 0 6 2 】

本発明の請求する別の態様によれば、多様な容器および食事用器具を運び、前記容器内の食品および液体を提供するための特殊な配膳トレイが提供される。

図 2 6 に本発明の 1 つ以上の実施態様による配膳トレイ 2 6 0 0 の上面図を示す。図 2 6 に示すように、配膳トレイ 2 6 0 0 は平坦な表面 2 6 0 1 を含む。前記平坦な表面 2 6 0 1 は、例えば、食品または飲料を運んで配膳するとき 1 つ以上の容器を支持するために使用することができる。好ましくは、前記配膳トレイ 2 6 0 0 は、滑り止め装置を備えた容器（図 1 ~ 図 1 9 で説明した容器など）を運ぶために使用することができる。図 2 6 に示すように、配膳トレイ 2 6 0 0 は、配膳トレイ 2 6 0 0 を掴むために使用する 1 つ以上のハンドル部 2 6 0 3 を含む。図に示すように、2 つのハンドル部 2 6 0 3 が前記配膳トレイ 2 6 0 0 の相対する 2 端に設けられる。1 つ以上の実施態様において、前記配膳トレイの端部は湾曲または上に傾斜していてもよく、前記ハンドル部 2 6 0 3 が前記配膳トレイ 2 6 0 0 の湾曲部内に設けられる。1 つ以上の実施態様において、前記ハンドル部の内側は成型されたゴムや類似の材質を備えてもよい。

10

【 0 0 6 3 】

1 つ以上の実施態様によれば、配膳トレイ 2 6 0 0 は、よだれ掛けやエプロン、テーブルクロス、ナプキンなどの布を（例えば、腰掛けた使用者の脚の上で）配膳トレイ 2 6 0 0 に固定することを可能にする 1 つ以上の固定機構も含む。こぼれた食品や液体、食べかす、その他好ましくないものが、介在・固定された布によって、服やカーペットの上に落下し、それらが汚れることがないようにすることができる。

20

図 2 6 に示すように、配膳トレイ 2 6 0 0 は、前記配膳トレイ 2 6 0 0 を使用者の前に配置したときに平坦な表面 2 6 0 1 を使用者に向けて延伸したフロントパネルを含む。固定機構 2 6 0 5 はフロントパネルに 1 つ以上の開口として実施され、抵抗力のある V 字形のフラップ付きのリングを備えている。一実施態様において、前記フラップはゴム、ゴムポリマー、および（または）熱可塑性エラストマー（あるいは類似の材質）で成り、配膳トレイ 2 6 0 0 に布を固定するために使用される。図 2 6 では V 字形のフラップ付きリングを使用した固定機構を示したが、本発明の請求する実施態様には、1 つ以上のクリップ、1 つ以上の留め金、1 つ以上のクランプ、1 つ以上のリング、1 つ以上のひも、および（または）別の形状のフラップを備えた 1 つ以上の開口を含む。また、これらに限らない、その他の固定機構も適している。

30

【 0 0 6 4 】

図 2 7 に本発明の 1 つ以上の実施態様による配膳トレイ 2 7 0 0 の正面図を示す。図 2 7 に示すように、配膳トレイ 2 7 0 0 は平坦な表面 2 7 0 1 と、（ハンドル部 2 7 0 3 が設けられた）カール部を含む。一実施態様において、前記平坦な表面 2 7 0 1 とハンドル部 2 7 0 3 は上述の図 2 6 の平坦な表面 2 6 0 1 とハンドル部 2 6 0 3 に相似している。

図 2 7 に示すように、配膳トレイ 2 7 0 0 も平坦な表面 2 7 0 1 底面に配置された滑り止め装置（例えば、隆起部 2 7 0 5）を含む。一実施態様において、隆起部 2 7 0 5 はゴム、ゴムポリマー、および（または）熱可塑性エラストマーなどスリップやスライドに抵抗する、またはそれらを防止する材質で製造することができる。別の実施態様によると、1 つ以上の隆起部の代わりに、前記平坦な表面 2 7 0 1 底面の大きな一部分（または全体）が滑り止め材質の層を備えてもよい。

40

【 0 0 6 5 】

図 2 8 に本発明の 1 つ以上の実施態様による配膳トレイ 2 8 0 1 の側面図を示す。図 2 8 に示すように、配膳トレイ 2 8 0 0 は平坦な表面 2 8 0 1 と、ハンドル部 2 8 0 3 を含む。一実施態様において、前記平坦な表面 2 8 0 1 とハンドル部 2 8 0 3 は上述の図 2 6 の平坦な表面 2 6 0 1 とハンドル部 2 6 0 3 に相似している。平坦な表面 2 8 0 1 から延伸されたフロントパネル 2 8 0 5 に固定機構（例えば、抵抗力のあるフラップ付きのリングを備えた開口）を配置することができる。

50

【 0 0 6 6 】

図 2 9 に本発明の 1 つ以上の実施態様による配膳トレイ 2 9 0 1 によだれ掛け 2 9 0 7 が固定された状態の上面図を示す。

図 2 9 に示すように、配膳トレイ 2 9 0 0 は平坦な表面 2 9 0 1 と、前記配膳トレイ 2 9 0 1 の端部に設けられたハンドル部 2 9 0 3 を含む。上述したように、端部は上方向に湾曲または傾斜させることができる。一実施態様において、前記平坦な表面 2 9 0 1 とハンドル部 2 9 0 3 は上述の図 2 6 の平坦な表面 2 6 0 1 とハンドル部 2 6 0 3 に相似している。図 2 9 に示すように、1 つ以上のよだれ掛け 2 9 0 7 またはその他布片の端を 1 つ以上の前記固定機構 2 9 0 5 に固定することができる。一実施態様において、前記よだれ掛け 2 9 0 7 の他端は、前記よだれ掛け 2 9 0 7 が腰掛けた使用者の脚の上で、前記配膳トレイ 2 9 0 0 の前に適切に広がるように、何らかの手段で使用者に固定することができる。こぼれた食品および（または）飲料は、前記よだれ掛け 2 9 0 7 で捕捉および（または）吸収することができる。図 2 9 に示すように、抵抗力のあるフラップ付きのリングを備えた開口を含む固定機構 2 9 0 5 は、前記よだれ掛け 2 9 0 7 の 1 つ以上の端部を相互に隣接するフラップの間に挿入することで固定することができる。

10

【 0 0 6 7 】

図 3 0 に本発明の 1 つ以上の実施態様による食器セット 3 0 0 0 の立体外観図を示す。図 3 0 に示すように、食器セット 3 0 0 0 は認知障害患者またはその他単独での飲食が困難な人物を補助するための特徴を備えた 1 つ以上の容器を含むことができる。

図 3 0 に示すように、前記 1 つ以上の容器は、食品および（または）液体食品を入れるための 2 つの器を含む。例えば、食器セット 3 0 0 0 は概ね直立した側壁部を備えた第 1 のボウル 3 0 0 1 と、傾斜したリップ部を備えた第 2 のボウル 3 0 0 3 を含むことができる。一実施態様において、前記第 1 のボウル 3 0 0 1 は、固形食品の提供に使用することができ、そのうち、前記概ね直立した側壁部が、（例えば、スプーンを使用して）食品の小片を当てて掬うことができる垂直またはほぼ垂直な表面を提供することで使用者を補助する。

20

一実施態様において、前記第 2 のボウル 3 0 0 3 は（スープや煮込みなど）液体の食品を提供するために使用することができ、そのうち、特定の食品を食べるときにこぼれまたは滴り落ちた液体の食品またはより小さな固形食品の一部を捕捉することができる傾斜した棚部となる前記リップ部が使用者を補助する。一実施態様において、前記第 1 のボウル 3 0 0 1 と前記第 2 のボウル 3 0 0 3 は、上述の図 1 ~ 図 1 0 の前記食品容器に相似しており、またそれらの追加の特徴を含んでもよい。

30

【 0 0 6 8 】

図 3 0 に示すように、前記食器セット 3 0 0 0 の 1 つ以上の容器は、安定型底部 3 0 0 9 を備えたカップ 3 0 0 5 と、溝部 3 0 1 3 が形成されたハンドル部 3 0 1 1 付きのマグ 3 0 0 7 も含むことができ、前記ハンドル部 3 0 1 1 は前記マグ 3 0 0 7 の底部まで延伸される。一実施態様において、前記カップ 3 0 0 5 は冷たい、または室温の液体飲料を提供するために使用することができ、そのうち、前記カップ 3 0 0 5 は、底面が前記カップ 3 0 0 5 内部に入れられた容量の外周よりも大きい円周を有する安定型底部 3 0 0 9 を備えている。1 つ以上の実施態様において、前記安定型底部 3 0 0 9 はゴムや熱可塑性エラストマーなど滑り止め材質で形成することができ、これは前記カップ 3 0 0 5 の側壁部と異なる材質とすることができるが、必ずしもそうである必要はない。1 つ以上の実施態様において、前記カップ 3 0 0 5 の側壁部は、プラスチック、陶器、金属、金属合金を含むが、これらに限らない、任意の数の適した材質で形成することができる。

40

一実施態様において、前記マグ 3 0 0 7 は、長時間持っていることが不快なことがある温度の液体（例えば、熱い、または非常に冷たい飲料）の提供に使用することができる。説明したように、前記マグ 3 0 0 7 は、前記マグ 3 0 0 7 の底部まで延伸されたハンドル部 3 0 1 1 を含み、前記ハンドル部 3 0 1 1 はその一部が前記マグ 3 0 0 7 の底面と平行またはほぼ平行になるように設けられ、前記マグ 3 0 0 7 が倒れてこぼれることに耐える追加の安定性を提供する。

50

一実施態様において、前記マグ 3 0 0 7 はさらに溝部 3 0 1 3 も含み、前記ハンドル部 3 0 1 1 を使用することが（例えば、関節炎を患った使用者にとって）不便または不快なとき、前記溝部 3 0 1 3 を通じて前記マグ 3 0 0 7 を持ち上げることができる。一実施態様において、前記カップ 3 0 0 5 と前記マグ 3 0 0 7 は、上述の図 1 4 ~ 図 1 9 の前記飲料容器に相似しており、またそれらの追加の特徴を含んでもよい。

【0069】

図 3 0 に示すように、食器セット 3 0 0 0 はさらに、テーブルスプーン 3 0 1 5 とスプーン 3 0 1 7 も含む。一実施態様において、前記テーブルスプーン 3 0 1 5 と前記スプーン 3 0 1 7 はいずれも、前記第 1 のボウル 3 0 0 1 と前記第 2 のボウル 3 0 0 3 のいずれかまたは両方の垂直方向の曲率に特に適合するように湾曲された先端部と、前記第 1 のボウル 3 0 0 1 と前記第 2 のボウル 3 0 0 3 のいずれかまたは両方の水平方向の曲率に特に適合するように湾曲された端部を備えている。

一実施態様において、前記テーブルスプーン 3 0 1 5 と前記スプーン 3 0 1 7 のいずれも湾曲したハンドル部を備え、そのうち前記ハンドル部の曲率は、前記ハンドル部を握ったときの人の手の弧形に沿った線に近い。一実施態様において、前記テーブルスプーン 3 0 1 5 と前記スプーン 3 0 1 7 は、上述の図 2 0 ~ 図 2 9 の前記テーブルスプーンと前記スプーンに相似しており、またそれらの追加の特徴を含んでもよい。

【0070】

図 3 0 に示すように、前記食器セット 3 0 0 0 はさらに配膳トレイ 3 0 1 9 を含んでもよい。図に示すように、前記配膳トレイ 3 0 1 9 は、上述の 1 つ以上の容器（3 0 0 1、3 0 0 3、3 0 0 5、3 0 0 7）および（または）スプーン（3 0 1 5、3 0 1 7）を運ぶため、または容器（3 0 0 1、3 0 0 3、3 0 0 5、3 0 0 7）に入れられた食品または液体を提供するための表面として使用できる平坦な表面を含む。

一実施態様において、前記配膳トレイ 3 0 1 9 は、前記配膳トレイ 3 0 1 9 の相対する側部に 1 つ以上の湾曲または傾斜部 3 0 2 3 を含んでもよい。ハンドル部 3 0 2 1 は、使用者（介助者など）が配膳トレイ 3 0 1 9 を運ぶことができるように湾曲または傾斜部 3 0 2 3 に組み込んでもよい。配膳トレイ 3 0 1 9 がさらに、布（よだれ掛け、エプロン、ナプキン、防水シート、テーブルクロスなど）の一枚（シートなど）を前記配膳トレイ 3 0 1 9 に固定できる 1 つ以上の固定機構を含んでもよく、それによりこぼれた食品や飲料を受けて、固定されたものの下方にある服や表面（絨毯など）に汚れやしみを付けないようにする領域を提供する。

【0071】

図 3 1 に本発明の請求する 1 つ以上の実施態様による食器セット製造の例示的なフローチャート 3 1 0 0 を示す。工程 3 1 0 1 ~ 3 1 0 5 は、ここで説明された多様な実施態様に基づく例示的な工程のフローチャート 3 1 0 0 である。

【0072】

工程 3 1 0 1 では、容器が形成される。一実施態様において、前記容器は、ボウル部上方に概ね直立した側壁部を設けることで空間が定義され、前記ボウル部の一側が底部上で前記ボウル部の相対する一側より高くなるように、前記ボウル部に垂直方向の傾斜が形成され、そのうち、前記垂直方向の傾斜によって、前記空間に深い区域と浅い区域が定義され、前記空間内に入れられた食品が前記空間の深い区域に向かって集まるように構成することができる。1 つ以上の別の実施態様において、容器の形成はボウル部と直立した側壁部の底面に沿って底面部を含むこともでき、前記底面部は 1 つ以上の滑り止め装置を含む。前記滑り止め装置は、さまざまな実施態様に応じて、構造的（例：より幅広の底部）、材質的（例：ゴム）、および（または）両者の組み合わせ（例：ゴム材質の隆起部）とすることができる。

【0073】

1 つ以上の実施態様において、前記容器は、側壁部の一部分に沿ってタブを含んで形成し、空間の深い区域の方向を示すようにしてもよい。1 つ以上の更なる実施態様において、第 1 容器は、前記側壁部の外周を囲む円形リップ部も含んで形成することができ、前記

円形リップ部は、例えば前記側壁部から外側に向かって上向きに延伸される。１つ以上の実施態様において、前記容器は、幅が広めながら相対的に短い空間を備えたボウルなどの食品容器として形成してもよい。

【００７４】

別の実施態様において、図３１に示す工程３１０１のプロセスは、比例的により小さな直径とより高い側壁部を備えた、カップやマグなどの飲料容器としての使用に適した容器の形成にも用いることができる。そのような実施態様によれば、前記容器は工程３１０１において、側壁部の上表面に沿って装着機構により前記容器に着脱自在に取り付けられるように構成された着脱自在の蓋を含んで形成することができる。

【００７５】

１つ以上の実施態様において、図３１の工程３１０１で形成される飲料容器は、側壁部外側表面の少なくとも一部分に沿って容器に接続されたハンドル部を含んで形成されてもよく、そのうち、前記ハンドル部の安定化部分が、前記容器底部の一部分に沿って前記容器に接続され、前記ハンドル部の安定化部分の底面側表面が前記底部の底面側表面に平行になるように構成される。１つ以上の実施態様において、前記ハンドル部は、ハンドル部の内側表面に人の指の幅に概ね相当する幅を有する溝部を設けて形成される。

【００７６】

工程３１０１は繰り返し実行し、上述したようなリップ部で囲んだ容器、飲料容器および（または）ハンドル部付きの飲料容器など、複数または異形の容器を形成することができる。

【００７７】

工程３１０３では、工程３１０１で形成した１つ以上の容器に適合するスプーンを形成する。１つ以上の実施態様において、工程３１０３では、ハンドル部からつぼ部の第１端が延伸され、つぼ部の前記ハンドル部に相対する一端に沿って先端部が形成され、つぼ部の側面端部の曲率が工程３１０１で形成された容器の側壁部の曲率に水平軸に沿って概ね適合するように構成されて、スプーンが形成される。

【００７８】

１つ以上の実施態様において、工程３１０３で前記スプーンは、ハンドル部が、閉じた人の手内部の弧形に近い形状に形成することができる。１つ以上の実施態様において、工程３１０３で前記スプーンは、先端部の曲率が、工程３１０１で形成された容器のボウル部の曲率に垂直軸に沿って概ね適合するように形成することができる。工程３１０３は繰り返し実行し、工程３１０３で説明したテーブルスプーンや、深型つぼ部を備えたスプーンなどを含むが、これらに限らない、複数または異形のスプーンを形成することができる。

【００７９】

工程３１０５では、配膳トレイが形成される。前記配膳トレイは、１つ以上の実施態様において、工程３１０１で形成された１つ以上の容器と、工程３１０３で形成された１つ以上のスプーンを運ぶために構成することができる。一実施態様において、前記配膳トレイの形成は、前記配膳トレイが工程３１０１で形成された１つ以上の容器を支持するための平坦な表面を備え、前記平坦な表面の相対する端部に複数のハンドル部が形成され、前記平坦な表面の少なくとも１つの端部に沿って配置された複数の固定機構が形成され、前記複数の固定機構によって前記配膳トレイに布片やその他のものを固定することができるように構成することができる。

【００８０】

ここで説明した本発明の食器セットは、認知障害を持つ認知障害者または動作が不自由な、および（または）発達不全の人が、より独立して飲食できるようにサポートし、それにより使用者の尊厳の維持を助け、食事中にこぼしたりする事故を防止または減少するとともに、介助を必要とする人への食事補助中の介助者の負担を軽減するためにも役立つ。

【００８１】

当業者であれば図面に記載された、および上述した本発明の実施態様は例示のみを目的

10

20

30

40

50

としており、限定を意図していないことが理解されるであろう。従って、本発明の目的は完全かつ効果的に達成されていることが明らかである。実施態様は本発明の機能と構造の原則を例示することを目的として示され、説明されており、それら原則から逸脱することなく変更が可能である。このため、本発明の特許請求の範囲と要旨の範囲内のあらゆる変更が本発明に含まれる。

【符号の説明】

【 0 0 8 2 】

1 0 0	容器	
1 0 1	側壁部	
1 0 3	ボウル部	10
1 0 5	タブ	
2 0 0	容器	
2 0 1	側壁部	
2 0 3	ボウル部	
2 0 5	タブ	
2 0 7	底面部	
A	浅い区域	
B	深い区域	
3 0 0	容器	
3 0 1	側壁部	20
3 0 3	ボウル部	
3 0 5	タブ	
3 0 7	底面部	
4 0 0	容器	
4 0 1	側壁部	
4 0 3	ボウル部	
4 0 5	タブ	
5 0 0	容器	
5 0 1	側壁部	
5 0 3	ボウル部	30
5 0 5	タブ	
5 0 7	底部	
6 0 0	容器	
6 0 1	側壁部	
6 0 3	ボウル部	
6 0 5	タブ	
6 0 9	リップ部	
7 0 0	容器	
7 0 1	側壁部	
7 0 3	ボウル部	40
7 0 5	タブ	
7 0 7	底面部	
7 0 9	リップ部	
8 0 0	食品容器	
8 0 1	側壁部	
8 0 3	ボウル部	
8 0 5	タブ	
8 0 7	底面部	
8 0 9	リップ部	
9 0 0	食品容器	50

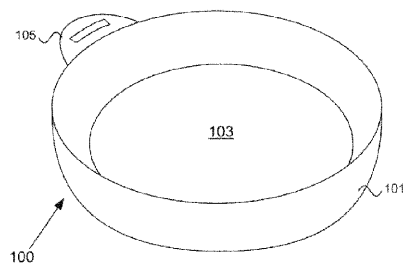
9 0 1	側壁部	
9 0 3	ボウル部	
9 0 5	タブ	
9 0 7	底面部	
9 0 9	リップ部	
1 0 0 0	容器	
1 0 0 1	側壁部	
1 0 0 3	ボウル部	
1 0 0 5	タブ	
1 0 0 7	底部	10
1 1 0 0	食品容器	
1 1 0 1	側壁部	
1 1 0 3	ボウル部	
1 1 0 5	タブ	
1 1 0 9	リップ部	
1 1 1 1	ハンドル部	
1 2 0 0	食品容器	
1 2 0 1	側壁部	
1 2 0 3	ボウル部	
1 2 0 5	タブ	20
1 2 0 7	底面部	
1 2 0 9	リップ部	
1 2 1 1	ハンドル部	
1 3 0 0	食品容器	
1 3 0 1	側壁部	
1 3 0 3	ボウル部	
1 3 0 5	タブ	
1 3 0 7	底面部	
1 3 0 9	リップ部	
1 3 1 1	ハンドル部	30
1 4 0 0	液体容器	
1 4 0 1	側壁部	
1 4 0 3	底面部	
1 4 0 5	蓋	
1 4 0 7	開口	
1 4 0 9	タブ	
1 5 0 0 a	容器蓋	
1 5 0 1 a	カバー	
1 5 0 3	ラッチ	
1 5 0 3 a	ラッチ	40
1 5 0 0 b	容器蓋	
1 5 0 1 b	カバー	
1 6 0 0 a	容器蓋	
1 6 0 1 a	カバー	
1 6 0 3 a	タブ	
1 6 0 0 b	容器蓋	
1 6 0 3 b	タブ	
1 6 0 5 b	開口	
1 7 0 0	液体容器	
1 7 0 1	側壁部	50

1 7 0 3	底面部	
1 7 0 5	蓋	
1 7 0 7	ボウル部	
1 8 0 0	液体容器	
1 8 0 1	側壁部	
1 8 0 3	底面部	
1 8 0 5	蓋	
1 8 0 7	開口	
1 8 0 9	ハンドル部	
1 8 1 1	溝部	10
1 9 0 0	液体容器	
1 9 0 1	側壁部	
1 9 0 3	底面部	
1 9 0 5	蓋	
1 9 0 7	ボウル部	
1 9 0 9	ハンドル部	
2 0 0 0 a	テーブルスプーン	
2 0 0 1 a	ハンドル部	
2 0 0 3 a	ボウル部	
2 0 0 7 a	ガード部	20
b	ボウル部 2 0 0 3 a の深さ	
2 0 0 0 b	スプースプーン	
2 0 0 1 b	ハンドル部	
2 0 0 3 b	ボウル部	
2 0 0 5 b	先端部	
D	ボウル部 2 0 0 3 b の深さ	
2 1 0 0 a	テーブルスプーン	
2 1 0 1 a	ハンドル部	
2 1 0 3 a	ボウル部	
2 1 0 5 a	先端部	30
2 1 0 7 a	ガード部	
2 1 0 0 b	スプースプーン	
2 1 0 1 b	ハンドル部	
2 1 0 3 b	ボウル部	
2 1 0 5 b	先端部	
2 1 0 7 b	ガード部	
2 2 0 0 a	テーブルスプーン	
2 2 0 1 a	ハンドル部	
2 2 0 3 a	ボウル部	
2 2 0 5 a	先端部	40
2 2 0 7 a	ガード部	
2 2 0 0 b	スプースプーン	
2 2 0 1 b	ハンドル部	
2 2 0 3 b	ボウル部	
2 2 0 5 b	先端部	
2 2 0 7 b	ガード部	
2 3 0 0 a	テーブルスプーン	
2 3 0 1 a	ハンドル部	
2 3 0 3 a	ボウル部	
2 3 0 5 a	先端部	50

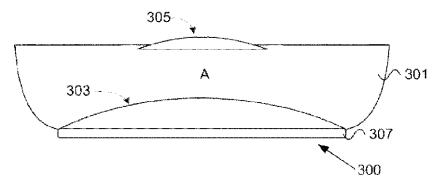
2 3 0 7 a	ガード部	
2 3 0 0 b	スプースプーン	
2 3 0 1 b	ハンドル部	
2 3 0 3 b	ボウル部	
2 3 0 5 b	先端部	
2 3 0 7 b	ガード部	
2 4 0 1	スプーン	
2 4 0 3	容器	
2 4 0 5	側壁部	
2 4 0 7	ハンドル部	10
2 4 0 9	ボウル部	
2 4 1 1	先端部	
2 4 1 5	手	
2 5 0 1	スプーン	
2 5 0 3	容器	
2 5 0 5	側壁部	
2 5 0 7	ハンドル部	
2 5 0 9	ボウル部	
2 5 1 1	先端部	
2 5 1 5	手	20
2 6 0 0	配膳トレイ	
2 6 0 1	平坦な表面	
2 6 0 3	ハンドル部	
2 6 0 5	固定機構	
2 7 0 0	配膳トレイ	
2 7 0 1	平坦な表面	
2 7 0 3	ハンドル部	
2 7 0 5	隆起部	
2 8 0 0	配膳トレイ	
2 8 0 1	平坦な表面	30
2 8 0 3	ハンドル部	
2 8 0 5	フロントパネル	
2 9 0 0	配膳トレイ	
2 9 0 1	平坦な表面	
2 9 0 3	ハンドル部	
2 9 0 5	固定機構	
2 9 0 7	よだれ掛け	
3 0 0 0	食器セット	
3 0 0 1	第1のボウル	
3 0 0 3	第2のボウル	40
3 0 0 5	カップ	
3 0 0 7	マグ	
3 0 0 9	安定型底部	
3 0 1 1	ハンドル部	
3 0 1 3	溝部	
3 0 1 5	テーブルスプーン	
3 0 1 7	スプースプーン	
3 0 1 9	配膳トレイ	
3 0 2 1	ハンドル部	
3 0 2 3	傾斜部	50

3 1 0 0 フローチャート
3 1 0 1 ~ 3 1 0 5 工程

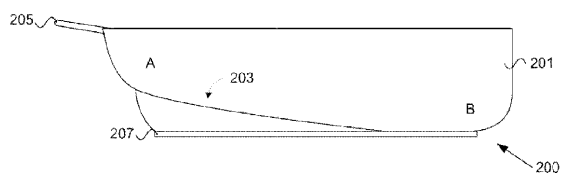
【図 1】



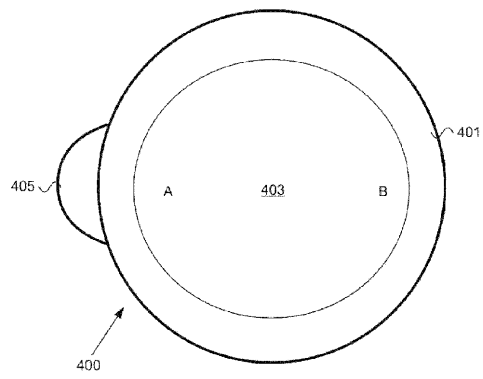
【図 3】



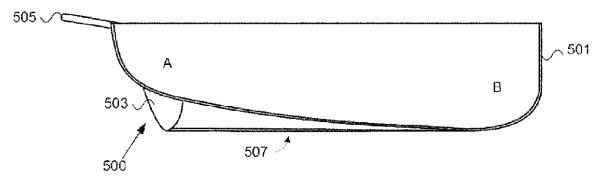
【図 2】



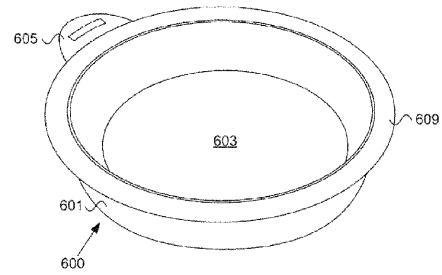
【図 4】



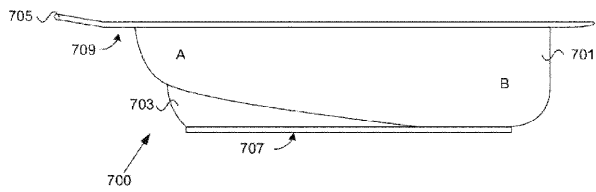
【図 5】



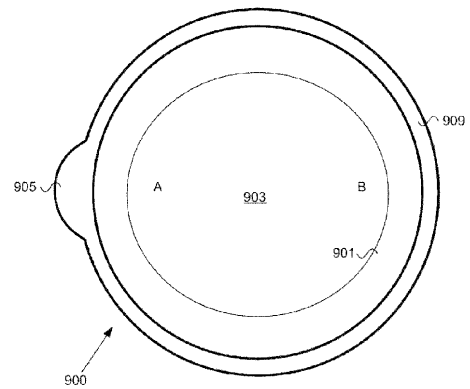
【図 6】



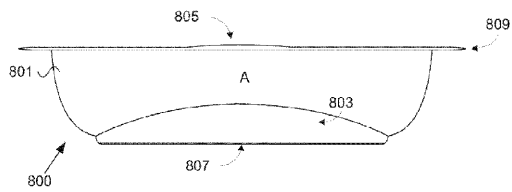
【図 7】



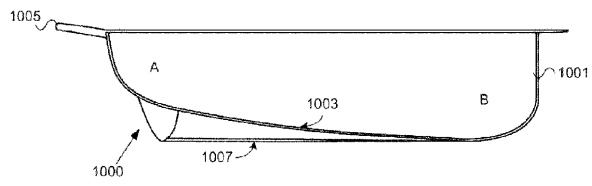
【図 9】



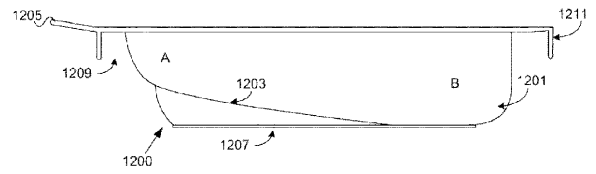
【図 8】



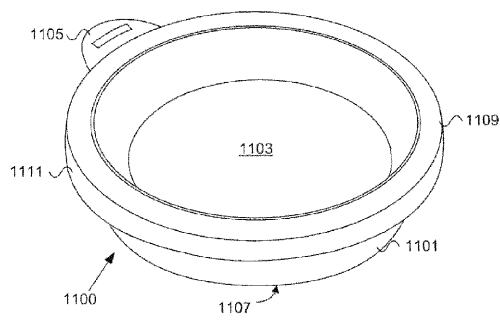
【図 10】



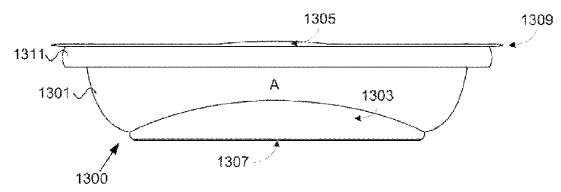
【図 12】



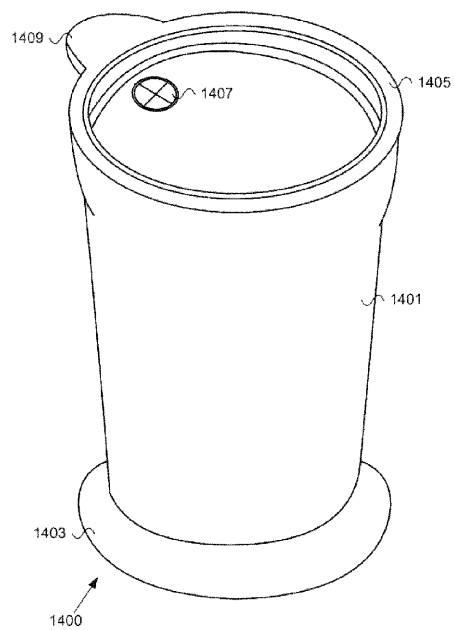
【図 11】



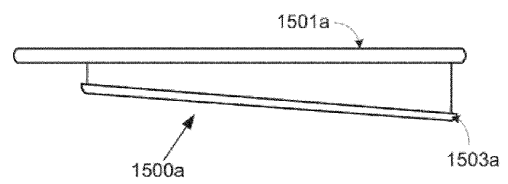
【図 13】



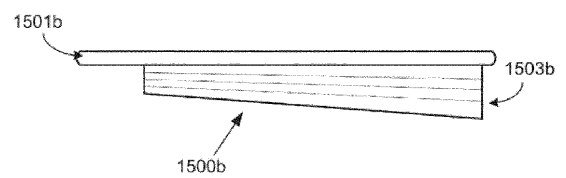
【図 14】



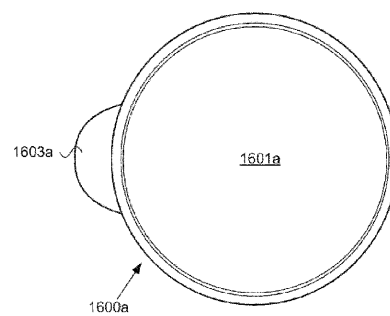
【図 15 a】



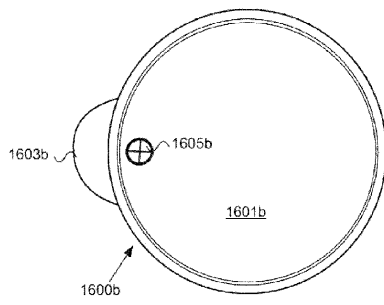
【図 15 b】



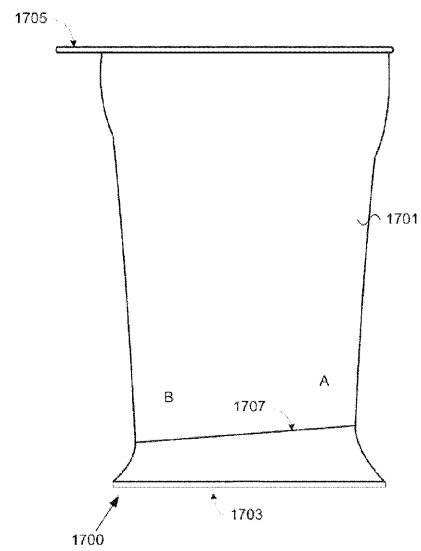
【図 16 a】



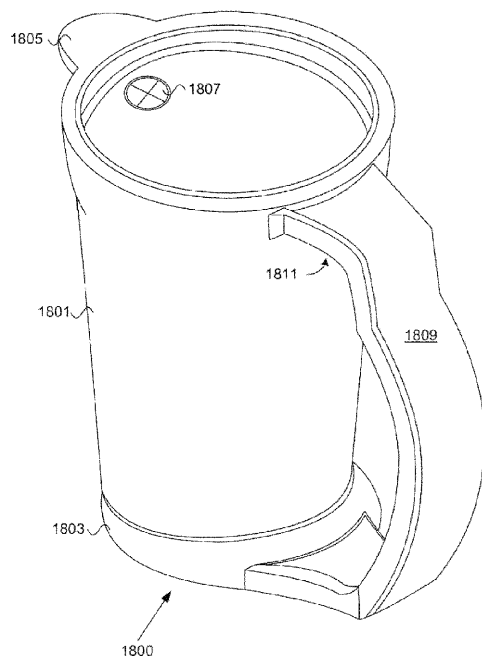
【図 16 b】



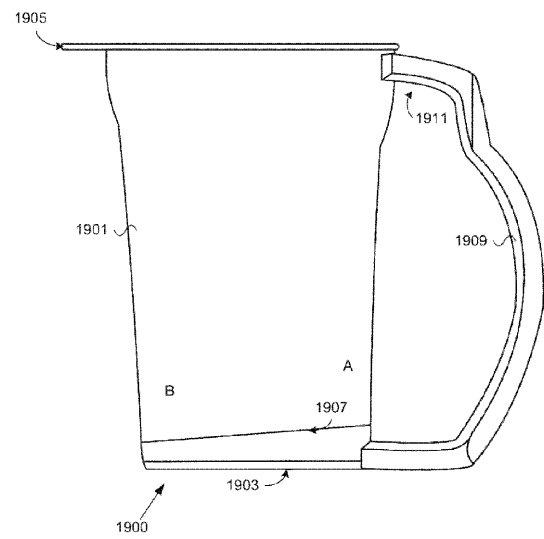
【図 17】



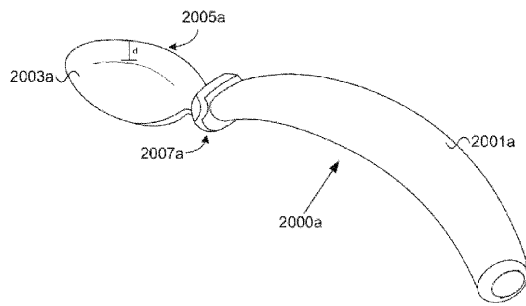
【図 18】



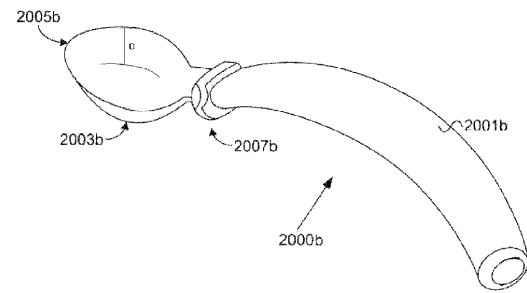
【図 19】



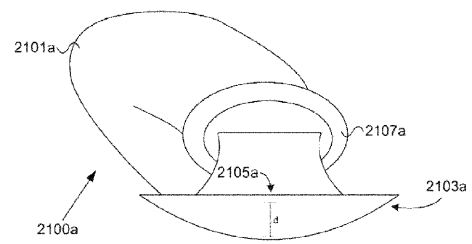
【図 20 a】



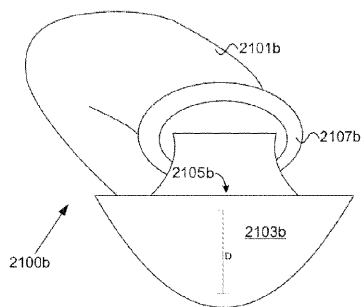
【図 20 b】



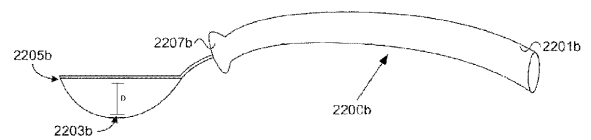
【図 21 a】



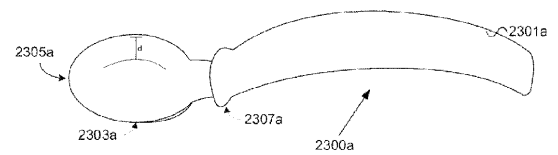
【図 21 b】



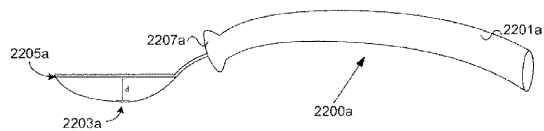
【図 22 b】



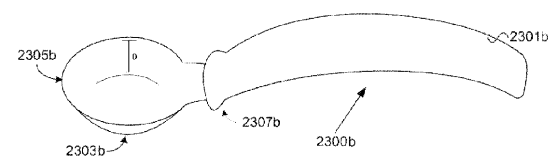
【図 23 a】



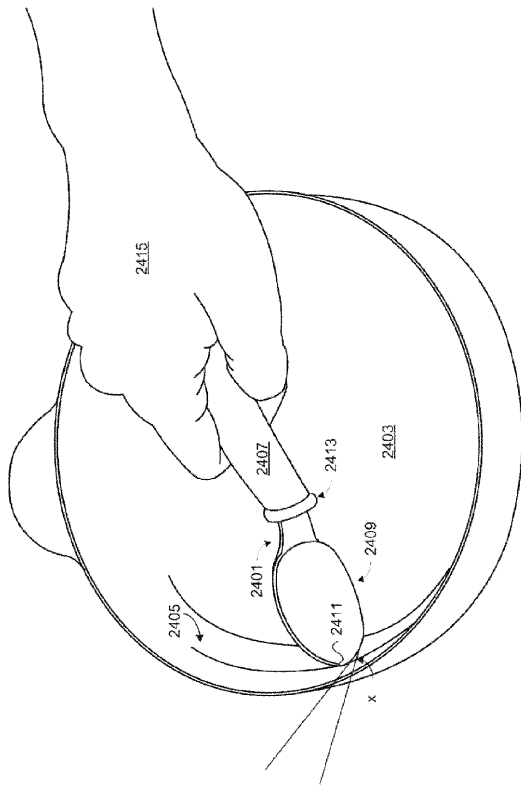
【図 22 a】



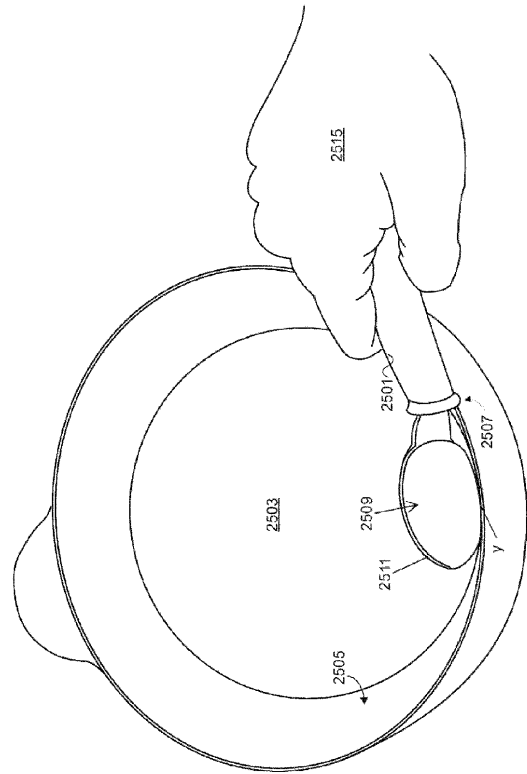
【図 23 b】



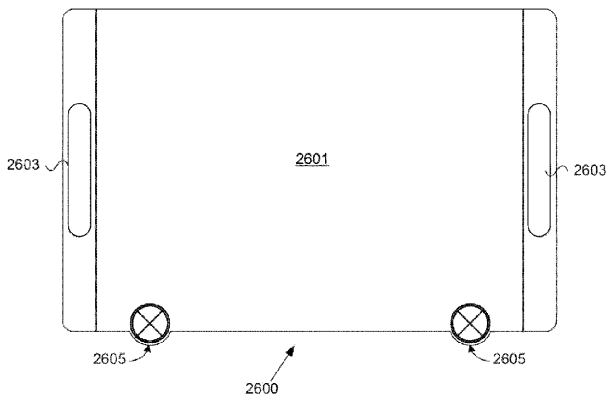
【図 2 4】



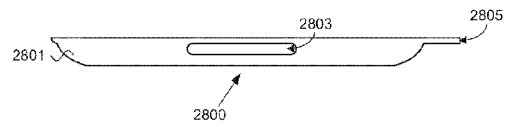
【図 2 5】



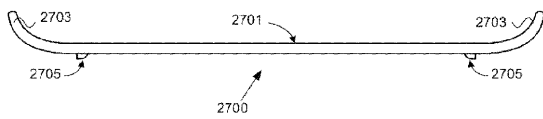
【図 2 6】



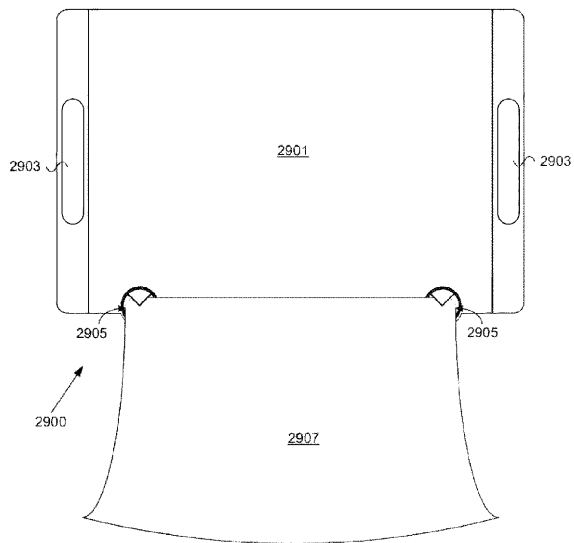
【図 2 8】



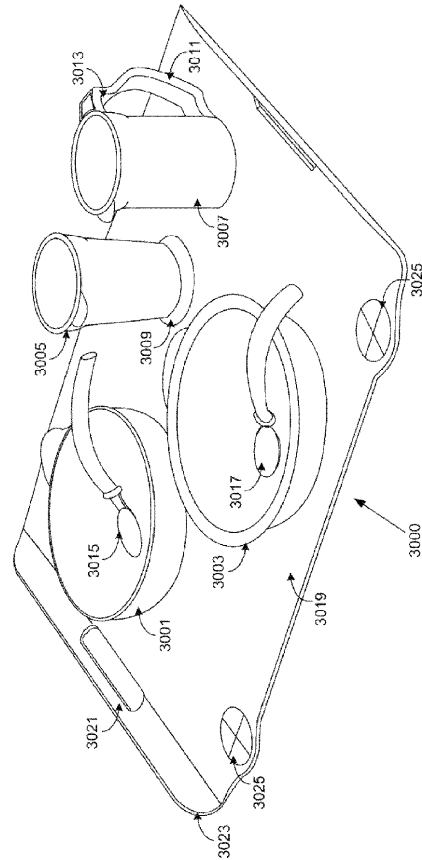
【図 2 7】



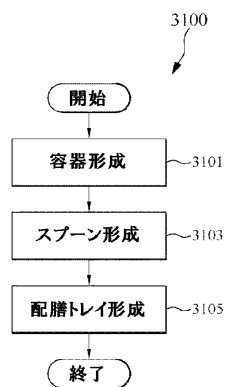
【図 29】



【図 30】



【図 31】



【 国际调查报告 】

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/CN2015/077358

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

A47G 21/06(2006.01)i; A47G 23/06(2006.01)i; A47G 19/12(2006.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A47G21, A47G23, A47G19

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

CATXT;USTXT;GBTXT;EPTXT;CNTXT;CNABS;WOTXT;SGTXT;VEN:disabled, impaired, neuro-cognitive, Alzheimer's, tableware, set, bowl, pot, tray, spoon, basin, base, container, vessal, handle, slant, bib, pinny, fasten,

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	CN 202222968 U (DONG, LAIPING) 23 May 2012 (2012-05-23) description, page 2, paragraph [0016] to [0020], Figure 1	25
A	CN 201139344 Y (YIN, MINGYU) 29 October 2008 (2008-10-29) description, page 2, lines 16 to 22, Figure 1 to 2	1-35
A	CN 2115715 U (TIAN, WEIBIN) 16 September 1992 (1992-09-16) the whole document	1-35
A	CN 102512048 A (DONGGUAN WENYU MELANINE DINNERWARE CO ET AL.) 27 June 2012 (2012-06-27) the whole document	1-35
A	JP H07275301 (MATSUZAKI K) 24 October 1995 (1995-10-24) the whole document	1-35
A	WO 2011073917 A1 (AIR NEW ZEALAND LTD ET AL.) 23 June 2011 (2011-06-23) the whole document	1-35

☐ Further documents are listed in the continuation of Box C.☒ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search

01 July 2015

Date of mailing of the international search report

31 July 2015

Name and mailing address of the ISA/CN

STATE INTELLECTUAL PROPERTY OFFICE OF THE
P.R.CHINA
6, Xitucheng Rd., Jimen Bridge, Haidian District, Beijing
100088, China

Authorized officer

LIU, Chang

Facsimile No. (86-10)62019451

Telephone No. (86-10)62085774

INTERNATIONAL SEARCH REPORT
Information on patent family members

International application No.

PCT/CN2015/077358

Patent document cited in search report			Publication date (day/month/year)	Patent family member(s)	Publication date (day/month/year)
CN	202222968	U	23 May 2012	None	
CN	201139344	Y	29 October 2008	None	
CN	2115715	U	16 September 1992	None	
CN	102512048	A	27 June 2012	None	
JP	H07275301		24 October 1995	None	
WO	2011073917	A1	23 June 2011	None	

フロントページの続き

(81)指定国 AP(BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), EA(AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), EP(AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OA(BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG), AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, JP, KE, KG, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US